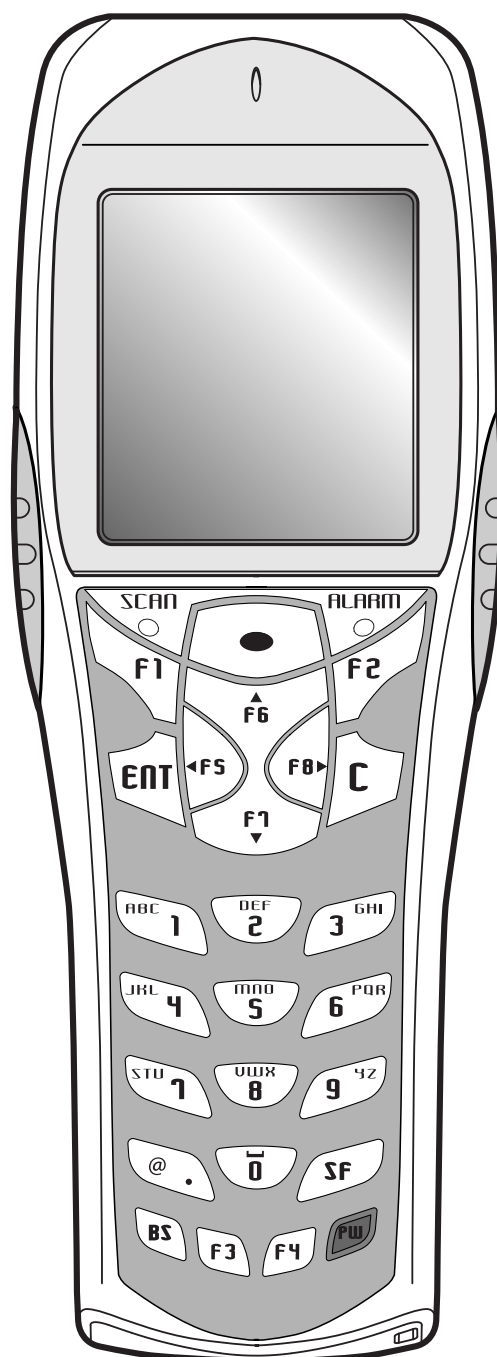


XIT-120-M

ユーザーズマニュアル

welcat
Over the Wave

二次元ハンディターミナル XIT-120-M ハードウェア/システムメニュー



商標について

- Microsoft、Windows、Visual Basic は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Bluetooth は Bluetooth SIG, Inc.の登録商標であり、ウェルキャットはライセンスに基づいて使用しています。
- 本製品には、キヤノンアイテック株式会社によって開発されたプログラム「UBQ-WLAN」が搭載されています。「UBQ-WLAN」はキヤノンアイテック株式会社の商標です。
- 本製品には、株式会社リコーによって開発されたビットマップフォントが搭載されています。
- 本製品には、MPEG Layer-3 オーディオのデコーダが搭載されています。MP3 のデコード技術は Fraunhofer IIS 社と Thomson 社からのライセンスに基づいて使用しています。
- 各マニュアル、素材集に含まれる画像や音声およびツールの著作権は株式会社ウェルキャットにあります。
- 各マニュアル、素材集に含まれる画像や音声およびツールの一部または全てを無断で使用、複製することはできません。
- その他記載されている製品名および会社名は、それぞれの企業の登録商標または商標です。

正しく安全に お使い頂くために

弊社製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

ご使用前にこのユーザーズマニュアルをよくお読みになり、内容を理解頂いた上でお使い頂きますようお願い申し上げます。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し説明します。



この表示の欄は「死亡または重傷等を負う可能性が想定され、かつ危険発生時の警告の緊急性が高い」内容です。



この表示の欄は「死亡または重傷等を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

以下の絵表示は、お守り頂く内容区分を説明しています。



このような絵表示はしてはいけない「禁止」であることを示します。図の中に具体的な禁止の内容が示されています。



このような絵表示は必ずして頂く「強制」であることを示します。図の中に具体的な指示の内容が示されています。



このような絵表示は注意を促す内容であることを示します。図の中に具体的な注意の内容が示されています。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するためにも、次の事柄は必ずお守りください。

必ずお守りください



製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している危険、警告、注意の表示を厳守してください。

XIT-120-M 本体、バッテリーカートリッジ (HBC-51) 共通

危険



必ず専用の周辺機器をご使用ください。

XIT-120-M 専用周辺機器：

- ・ バッテリーカートリッジ (HBC-51)
- ・ シングルチャージャ (QC-001) 別売
- ・ マルチチャージャ (QC-002) 別売



高温になる場所（火やストーブのそば、炎天下など）や引火性ガスの発生する場所での使用、放置、充電はしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



電子レンジや高圧容器などの中に入れないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



火の中に投入したり、加熱しないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



レーザを人に向けしないでください。

レーザ光が目に入ると視力に障害をきたす恐れがあります（『レーザ安全基準について』（P.viii）参照）。



バッテリーカートリッジの端子や、本体の電池端子/充電端子をショートさせたり、ハンダ付けしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



バッテリーカートリッジの (+) と (-) の向きを逆にして使用、充電しないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。

警告



所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電をやめてください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



落下させる、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。

漏液、発熱、破裂、発火、故障の原因となります。



発熱・発煙・異臭などが発生したときは、電源を切りバッテリーカートリッジを外してください。

そのまま使用すると、発熱、発火の原因となります。バッテリーカートリッジではさらに漏液、破裂の原因ともなります。



分解、改造をしないでください。

けがや感電、火災などの事故または故障の原因となります。内部の点検、調整はお買い上げの販売店にお任せください。

万一、改造などにより生じた問題については、一切の責任を負いかねます。



バッテリーカートリッジの端子や、本体の電池端子/充電端子に手や指など身体の一部が触れないようにしてください。

感電、傷害、故障の原因となる場合があります。



薬品に近づけないでください。

薬品が触れる場所や薬品のそばで使用、保管しないでください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。

注意

高温となる場所、湿気・ほこりの多い場所で使用・保管しないでください。



火のそば、直射日光が当たるところなど高温になる場所での使用や保管は避けてください。火災などの事故またはケースの変形や故障の原因となります。また湿気、ほこりの多いところでの使用や保管は避けてください。感電、火災などの事故または故障の原因となります。

不安定なところに置かないでください。



機器が落ちたり倒れたりして、けがや機器の故障の原因となります。

乳幼児の手の届くところに置かないでください。



けがなどの原因となります。



本製品は、その故障が直接生命を脅かしたり人体に影響のある装置（原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器制御など。以下『ハイセイフティ用途』）に使用するために開発、意図、許可されているものではありません。

弊社は、本製品を当該ハイセイフティ用途に使用したことにより発生したいかなる損害に対しても、一切の責任を負いかねます。

XIT-120-M 本体について

警告



持ち運びのときには、ストラップがひっかからないようにしてください。

ストラップの取扱いには充分注意してください。ストラップが他の物にひっかかると、けがや事故の原因となります。



高精度な制御や微弱な信号を扱う電子機器の近くでは使用しないでください。

電子機器（医療用電子機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など）が誤動作するなどの影響を与えることがあります。



異物を本体の内部に入れないでください。

もし本体の内部に異物や液体が入った場合は使用を中止し、お買上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると感電、火災などの事故または故障の原因となります。

注意



コンピュータや蛍光灯、電子レンジなどのノイズを発する機器からはなるべく離して使用してください。

ノイズの影響により正常に通信でなくなる場合があります。



必ず手に取って操作してください。

床や机に置いたまま、あるいはチャージャに置いたままの状態で作ると機器の故障や誤作動の原因となります。



強い衝撃を与えないでください。

本体を落とす、投げる、叩くなどしないでください。故障の原因となります。



水中に入れたり、強い勢いで水をかけたりしないでください。

本体は水没、噴射水に対し保護されません。内部に水が入り感電、火災などの事故または故障の原因となります。



磁石、スピーカー、ブラウン管や、RFID のアンテナ近くなど、強い磁界の発生する恐れがあるところで使用、保管しないでください。

本体の誤動作や故障の原因となります。

バッテリーカートリッジ (HBC-51) について



Li-ion

使用済みバッテリーカートリッジ (HBC-51) について

XIT-120-M にはリチウムイオン二次電池 (バッテリーカートリッジ : HBC-51) が使用されています。リチウムイオン二次電池は、「資源有効利用促進法」により、電池メーカー及び電池を使用する機器メーカーに回収・リサイクルが義務付けられた小型二次電池です。弊社では有限責任中間法人 JBRC の会員として、使用済み小型二次電池の回収・リサイクルを実施しております。寿命となったバッテリーカートリッジは一般のゴミと一緒に捨てず、回収に関しては弊社までお問い合わせください。

⚠ 危険



バッテリーカートリッジが漏液して液が皮膚、衣服に付着したときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。また、液が目に入ったときは、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。

放置すると、失明やその他傷害を起こす原因となります。



バッテリーカートリッジを火の中に投入したり、加熱しないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。



バッテリーカートリッジを水や海水などにつけたり、濡らさないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。



釘をさしたり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。

漏液、発熱、破裂、発火の原因となります。

⚠ 警告



バッテリーカートリッジが漏液、変形・変色したときには使用しないでください。

そのまま使用すると、バッテリーカートリッジの発熱、破裂、発火、または漏液の原因となります。また火気に近づけると漏液した電解液に引火する恐れがあります。

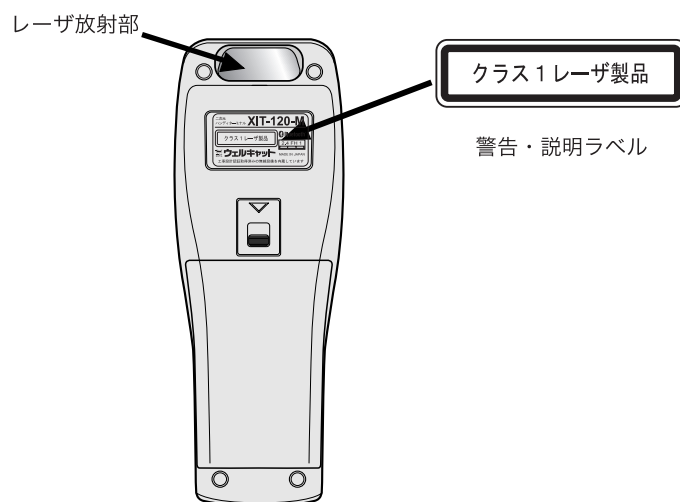
レーザー安全基準について

本製品はレーザー製品の安全基準 (JIS C 6802) クラス 1 に準拠しています。

最大出力: 0.7mW

波長: 650±5nm

レーザーに関する警告ラベル



注意

ユーザーズマニュアルに反した使用や、製品の分解はしないでください。危険なレーザー放射の被ばくを招くことがあります。

LCD について

製品によってバックライト色や輝度に若干違いのあることがございますが、これは液晶の特性によるバラつきであり不良ではありません。

注意

1. 本機は電波法に基づく技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。
2. 本機を分解したり、本機の内部に触れることは電波法で禁止されており、法律で罰せられることがあります。故障の際の内部点検、調整はお買い上げの販売店にお任せください。
3. 本機は日本国内でのみ使用可能です。海外では電波規格が異なるため、使用できません。

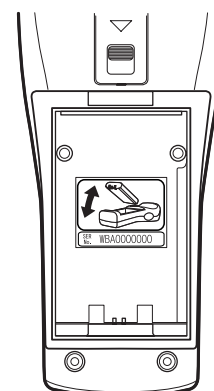
製品保証について

1. 製品の無償保証期間は弊社出荷日より 1 年となります。ただし、無償保証期間内でも、次のような場合は有償となることがありますのでご了承ください。なお、本製品に保証書の添付はございません。
 - ・ シリアル番号の無いものおよび確認できないもの(出荷日の管理が不可能なため)
 - ・ マニュアル等に記載された使用方法および注意事項に反する取り扱いによる障害
 - ・ 故意または重大な過失による障害
 - ・ 使用環境が所定条件から逸脱したことによる障害
 - ・ 許可無く、改造または他機器の接続、取付けを行なったことによる障害
 - ・ 災害、地震、水害等の天災地変による障害
 - ・ お客様の作成されたソフトウェアおよびシステムによる障害
 - ・ 使用上避けられない消耗による障害・部品交換(消耗品交換)
2. 製品の内容は、改良やバージョンアップなどにより、予告なく変更することがあります。
3. 本製品の運用の結果生じた損失については、全てに關しての責任を負いかねますので、ご了承ください。
4. お買上頂きました製品をご利用頂くにあたり、下記の登録ページへのリンク(またはFAX 用登録フォーム)よりユーザ登録をして頂くことをお奨めします。ユーザ登録は、弊社が製品の保証をするために必要なものですので、ぜひ登録をお願い致します。またご登録頂くことで、商品・サービスに関連した情報等をご提供させていただきます。

<http://www.welcat.co.jp/support/regist/index.htm>

登録には製品のシリアル番号が必要になりますので、予めご確認ください。シリアル番号は、バッテリーカートリッジの収納部に貼付してあります。

なおインターネットへの接続ができない場合は、巻末のフォームをプリントアウトし、必要事項を記入の上、FAXでお送りください。



消耗品について

消耗品（消耗部品）は、製品を使用し続けることで性能が低下してきます。製品の使用環境や使用頻度により性能低下までの期間は異なり、使用状況によっては弊社の保証期間より短い期間での交換（有償）が必要になることがあります。

- ・ キーシート（サイドキーを含む押しボタン）
- ・ バイブレータ（振動モーター）
- ・ イメージスキャナ（バーコード読取り装置）
- ・ 電極板（端末充電および電池端子）
- ・ バッテリーカートリッジ
- ・ バックアップ電池

などが消耗品となります。



ご使用が終わりましたバッテリーカートリッジにつきましては、「使用済みバッテリーカートリッジ（HBC-51）について」（P.vii）を参照してください。

目次

レーザ安全基準について	viii
レーザに関する警告ラベル	viii
LCD について	viii
製品保証について	ix
消耗品について	x
目次	xi
はじめに	xiv
同梱品	xiv
別売り	xiv
表記上の注意	xv
本書の構成	xvii

第 1 章 ハードウェア編 1-1

1-1 各部の名称	1-2
1-2 使用前の準備	1-4
1-2-1 機器の接続	1-4
1-2-2 周辺ソフトウェアについて	1-5
1-3 無線通信について	1-6
1-3-1 データ通信の準備	1-6
1-3-2 データ通信の方法	1-7
1-4 製品仕様	1-8
1-5 読取り仕様	1-10
1-6 充電仕様	1-15
1-6-1 本体充電	1-15
1-6-2 シングルチャージャ（QC-001）を使った充電方法	1-15
1-6-3 マルチチャージャ（QC-002）を使った充電方法	1-16
1-7 バッテリーカートリッジ（HBC-51）について	1-18
1-7-1 ご使用時の充電	1-18
1-7-2 バッテリーカートリッジの取付け、取外し	1-18
1-7-3 バッテリーカートリッジの消耗と交換	1-19
1-7-4 電極の清掃に関する注意	1-19
1-7-5 バックアップ電池の充電	1-19
1-8 メモリバックアップ期間	1-20
1-9 長期保管について	1-22
1-10 レジューム機能について	1-23
1-11 画面出力キャラクタ	1-24

第 2 章 ソフトウェア編 2-1

2-1 ソフトウェアについて	2-2
2-1-1 データの格納場所	2-2
2-2 システムメニューについて	2-4

第3章 システムメニュー編	3-1
3-1 はじめに	3-2
3-2 設定値の保存	3-2
3-2-1 レジストリ	3-2
3-3 キー名称と機能	3-3
3-4 システムメニューの操作	3-5
3-5 電池残量について	3-8
3-6 システムメニューの起動	3-9
3-6-1 起動方法	3-9
3-6-2 設定ウィザードの実行	3-9
3-6-3 BHCP リクエストの実行	3-11
3-7 システムメニュー一覧	3-12
3-8 システム設定カテゴリ	3-13
3-8-1 自動実行	3-13
3-8-2 時計	3-14
3-8-3 レジューム	3-15
3-8-4 パスワード	3-16
3-8-5 オートウェイクアップ	3-18
3-8-6 オートパワーオフ	3-19
3-9 受信カテゴリ	3-20
3-10 ファイルカテゴリ	3-22
3-11 端末 ID カテゴリ	3-30
3-12 デバイスカテゴリ	3-31
3-12-1 バーコード	3-31
3-12-2 キー	3-35
3-12-3 Bluetooth	3-35
3-12-4 画面	3-41
3-12-5 音/バイブ	3-43
3-13 メンテナンスカテゴリ	3-48
3-13-1 電池残量	3-48
3-13-2 システムバージョン	3-49
3-13-3 初期化	3-49
3-13-4 クローン	3-51
3-13-5 ドライブ	3-54
3-13-6 長期保管	3-55
3-13-7 ウィザード	3-55
3-13-8 BHCP	3-56
3-14 テストカテゴリ	3-58
3-14-1 Bluetooth	3-58
3-14-2 バーコード	3-59
3-14-3 画面	3-61
3-14-5 キー	3-62

第 4 章 FAQ（よくある質問と回答） 4-1

4-1 FAQ.....	4-2
Q：電源が入らない.....	4-2
Q：画面に何も表示されない.....	4-2
Q：しばらく操作を中断したら、電源が OFF になってしまった.....	4-2
Q：充電できない.....	4-2
Q：システムメニューが起動しない.....	4-3
Q：電源を ON にしたときに起動するアプリケーションを変更したい.....	4-3
Q：別のアプリケーションを起動するには.....	4-3
Q：バーコードが上手く読取れない.....	4-3
Q：太陽光の下での読取りは可能か？.....	4-3
Q：暗闇での読取りは可能か？.....	4-3
Q：ドライブの空き容量を確認するには.....	4-4
Q：Bluetooth 通信ができない.....	4-4
Q：WLAN と Bluetooth の同一環境での同時使用は可能か？.....	4-4
Q：ファイルの送受信中に「書き込みに失敗しました」と表示された.....	4-4
Q：ファイルの送受信中に「タイムアウトです」と表示された.....	4-4
Q：ファイルの送受信中に「接続に失敗しました」と表示された.....	4-5
Q：アプリケーションの起動やファイルの送受信ができない.....	4-5
Q：ファイルが壊れているようなのですが.....	4-5
Q：「システムエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった.....	4-5

付録 A システムメニュー出荷時設定一覧 A-1

付録 A-1 システムメニュー出荷時設定一覧.....	A-2
-----------------------------	-----

付録 B サンプルバーコード B-1

付録 B-1 サンプルバーコード.....	B-2
-----------------------	-----

索引 索引-1

索引.....	索引-2
---------	------

はじめに

この度は二次元ハンディターミナル XIT-120-Mをお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。
このユーザーズマニュアルは XIT-120-M のハードウェアとシステムプログラムについて説明するものです。

お客様の業務の効率化に XIT-120-M がお役に立てれば幸いです。

同梱品

- XIT-120-M 本体 1
 - バッテリーカートリッジ (HBC-51) 1
 - ストラップ 1
 - マニュアル CD-ROM (GID-001) ※
- ※別梱包にて添付

別売り

- シングルチャージャ (QC-001)
- マルチチャージャ (QC-002)
- 転送ユーティリティ BluePorter (WLF-001)
- アプリケーション開発ツール WebGlider-X Lite (WBG-002)
- Bluetooth 通信ユニット (IU-002)
- LAN 対応通信コントロール B-Spider (WLF-002)

表記上の注意

	参照事項を表わします。
	注意事項を表わします。
「XIT-120-M」「端末」	二次元ハンディターミナル XIT-120-Mを表わします。
「システムプログラム」	XIT-120-Mに搭載されている OS を表わします。
「システムメニュー」	システムプログラムの機能の一部を表わします。
「WebGlider-X Lite ブラウザ」	「WebGlider-X Lite」を使用して Web 型システムを構築する際に、端末のアプリケーションとして動作します。
「WebGlider-X Lite」	XIT-100 シリーズ用 WebGlider-X Lite (WBG-002)を表わします。必要に応じて別途ご購入ください。
「BluePorter」	PCと端末間で、Bluetooth 通信を使用してファイル転送を行なうためのユーティリティソフトウェアを表わします。必要に応じて別途ご購入ください。
「F ドライブ」	アプリケーション、データベースマスターファイルなどを格納するための領域を表わします。ホストコンピュータからダウンロードしたアプリケーションデータはFドライブに保存されます。
「S ドライブ」	アプリケーションの動作中に一時的なファイル(テンポラリファイル)を格納するための領域として使用します。
「バッテリーカートリッジ」	「HBC-51」を表わします。
「バックアップ電池」	バッテリーカートリッジを外したときあるいはバッテリーカートリッジの残量が少なくなった場合、内蔵時計のデータやファイルの一時保存を行うための電池です。
「読取りキー」	バーコードを読取るときに押します。
「ローカルデバイス」	操作中の Bluetooth デバイスを表わします。XIT-120-M を操作中は XIT-120-M のことを表わします。
「リモートデバイス」	ローカルデバイスの接続先となる Bluetooth デバイスを表わします。
「デフォルトデバイス」	システムメニューのリモートデバイスリストに登録された Bluetooth デバイスのうち、デフォルトに設定されたものを表わします。システムメニューでは常にデフォルトデバイスに接続します。
「バーコード」	一次元バーコードおよび二次元コードを表わします。
「エイミングパターン」	バーコード読取り時に読取り位置と範囲を確認するためのレーザ照射パターンです。
「イルミネーション LED」	バーコード読取り時にバーコードを照らすための LED です。
「フォーカス」	バーコード読取り時のイメージスキャナの焦点距離です。

Bluetooth 通信ユニット	LANに接続してPCとのファイル転送を行なうことができる通信ユニットです。端末とは Bluetooth で接続します。必要に応じて別途ご購入ください。
B-Spider	Bluetooth 通信ユニットを使用してファイル送受信を行なうのに必要な ActiveX コントロールを含むソフトウェアパッケージです。必要に応じて別途ご購入ください。

本書の構成

- 第 1 章 ハードウェア編

XIT-120-M の基本的な取扱や仕様、操作方法について説明します。

- 第 2 章 ソフトウェア編

XIT-120-M に搭載されているソフトウェアや、関連したソフトウェアについて説明します。

- 第 3 章 システムメニュー編

システムメニューの設定や操作方法について説明します。

- 第 4 章 FAQ（よくある質問と回答）

よくある質問やトラブル、それらを解決するために確認する必要のある項目、および本マニュアルの参照ページを記載します。

- 付録 A システムメニュー出荷時設定一覧

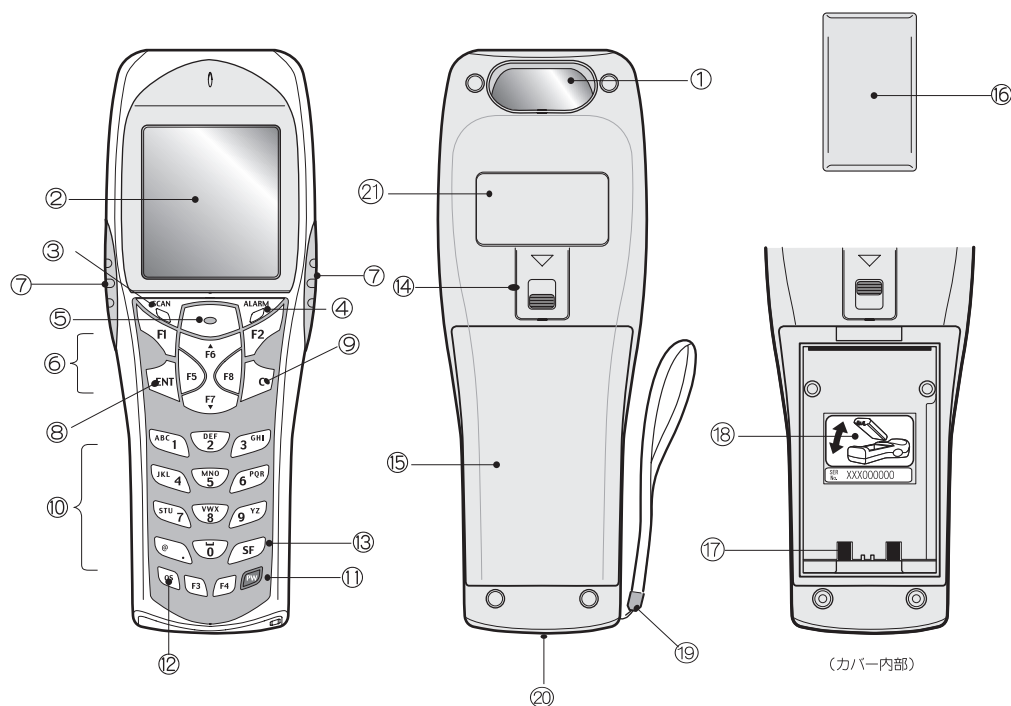
- 付録 B サンプルバーコード

- 索引

第 1 章

ハードウェア編

1-1 各部の名称



① 読取り口

バーコードを読取るための開口部です。レーザ光が放射されますのでのぞき込まないでください。

② LCD (液晶表示器)

データや文字、画像を表示します。

③ SCAN LED

バーコードを正しく読取ると緑色に点灯します。本体充電中は赤色に点灯し、本体充電完了時には緑色に点灯します。

④ ALARM LED

⑤ 読取りキー

バーコードを読取るときに押します。

⑥ ファンクションキー (F1～F8)

機能の切り換えやカーソル操作をします。

⑦ F9 キー、F10 キー

機能の切り換えやカーソル操作をします。左側が F9 キー、右側が F10 キーとして扱われており、このキーをバーコードの読取りに使用するにはソフトウェアでの対応が必要になります。

⑧ 入力キー (エンターキー)

入力したデータや操作を確定、実行するときに押します。

⑨ C キー (キャンセルキー)

操作を一つ前の状態に戻したり、入力した文字を全て消去します。

⑩ テンキー (0～9, *, #)

割り当てられた数字や文字を入力したり、メニューで該当する項目を選択します。

⑪ P キー (パワーキー)

電源の ON/OFF を行ないます。

- ⑫ Ⓢキー (バックスペースキー)
入力した 1 つ前の文字を消します。
- ⑬ Ⓢキー (シフトキー)
文字入力モードに切り替えたり、他のキーと一緒に押すことで特殊な機能を持つキーとして使用できます。
- ⑭ バッテリーカバーロックレバー
矢印の方向にレバーを移動するとロック状態になります。ご使用の際は必ずロック状態にしてください。
- ⑮ バッテリーカバー
必ずバッテリーカバーをつけた状態でご使用ください。
- ⑯ バッテリーカートリッジ
ご購入後のバッテリーカートリッジは、必ず充電してからご使用ください。
端子に汚れやゴミが付着しないようにご注意ください。汚れやゴミが付着している場合は、綿棒等を使用して取除いてからご使用ください。
- ⑰ 充電端子
汚れやゴミが付着しないようにご注意ください。汚れやゴミが付着している場合は、綿棒等を使用して取除いてからご使用ください。
- ⑱ シリアル番号シール
シリアル番号およびバッテリーカートリッジの着脱向きについて記載されたシールが貼付してあります。
- ⑲ ハンドストラップ
- ⑳ スピーカ放音孔
- ㉑ 製品銘板
製品名や製造元、レーザの警告等が記載されています。

1-2 使用前の準備

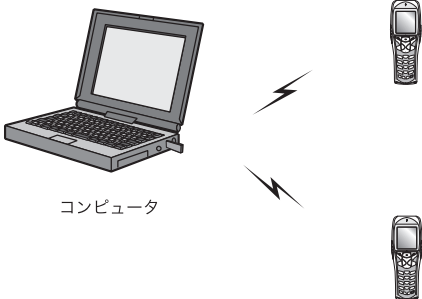
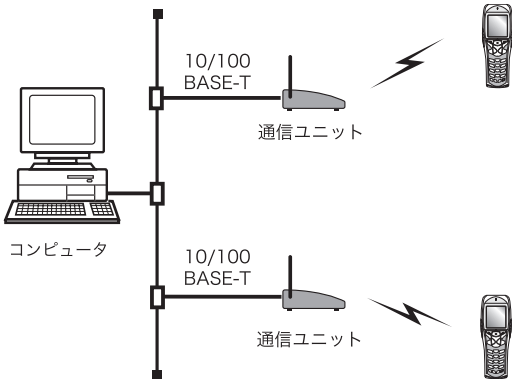
XIT-120-Mを使用する前に、次の準備と確認をしてください。

- **バッテリーカートリッジ-HBC-51**
XIT-120-M を使用するために必要です。ご使用前に充電をしてください。正しく装着し、バッテリーカバー、およびバッテリーロックをしてご使用ください。
- **読取り口は汚れていませんか？**
読取り口が汚れていると、バーコードを正しく読取ることができません。汚れていた場合は、柔らかい布などで軽く拭いてからご使用ください。
- **充電端子は汚れていませんか？**
ゴミや汚れが付着していると、充電エラーや故障の原因となります。汚れていた場合は綿棒等を使用してゴミや汚れを取除いてからご使用ください。

1-2-1 機器の接続

XIT-120-M では、入力したデータをホストコンピュータに送信したり、ホストコンピュータからデータを受信したりすることができます。

ホストコンピュータとの接続には、次の方法があります。使用環境に応じて必要な準備を整えてください。

Bluetooth 通信	P.1-7
ホストコンピュータの USB ポートに、Bluetooth USB アダプタを接続して、XIT-120-M との Bluetooth 通信。 ■別途購入 転送ユーティリティ「BluePorter」(Bluetooth USB アダプタが同梱されています)	
Bluetooth 通信	P.1-7
Bluetooth 通信ユニットをイーサネット LAN に接続して XIT-120-M との Bluetooth 通信。 ■別途購入 Bluetooth 通信ユニット、イーサネットケーブル、HUB、LAN 対応通信コントロール「B-Spider」 Bluetooth 通信ユニットの使用方法に関しては、「Bluetooth 通信ユニット ユーザーズマニュアル」をご覧ください。	

1-2-2 周辺ソフトウェアについて

ホストコンピュータとのデータ通信や、XIT-120-M 用ブラウザを使ってシステムを構築する場合は、次のソフトウェアが必要です。

システム構築の詳細については、各ソフトウェア付属のオンラインマニュアルをご覧ください。

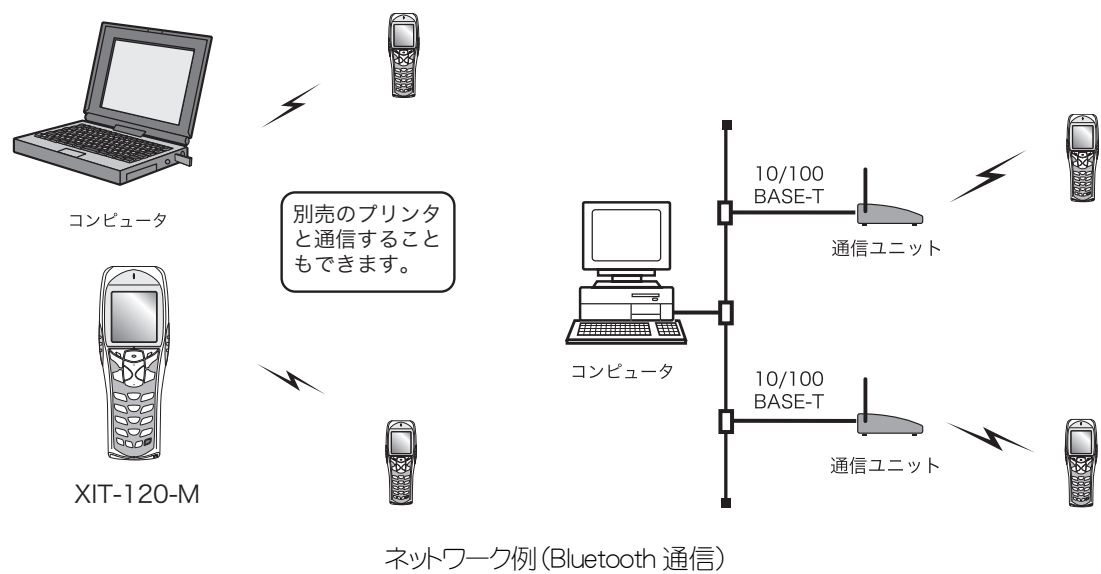
ソフトウェア名	準備・用途
アプリケーション開発ツール WebGlider-X Lite (WBG-002)	ホストコンピュータとのデータ通信や、WebGlider-X Lite ブラウザを使ってシステム構築をする場合に必要です。 WebGlider-X Lite ブラウザを使ってデータ通信を行うためには、コンピュータ側に「WebGlider-X Lite」をインストールしてから通信環境のセットアップをし、端末に WebGlider-X Lite ブラウザをインストールする必要があります
転送ユーティリティ BluePorter	Bluetooth 通信でファイル転送を行なうためのユーティリティソフトウェアです。必要に応じて、別途ご購入ください。予めドライバソフトのインストール、Bluetooth USB アダプタの接続などを行なう必要があります。
LAN 対応通信コントロール 「B-Spider」	Bluetooth 通信ユニット(IU-002)を使用して、ファイル転送を行なうのに必要な LAN 対応通信コントロール(ActiveX)です。パッケージには通信ユニット設定ツール、サンプルプログラム、ファイル転送ユーティリティが同梱されています。

1-3 無線通信について

■XIT-120-M の無線機能

XIT-120-M は、無線伝送方式によるハンディターミナル・ネットワークシステムです。小型軽量で携帯性に優れており、コンピュータから離れた場所で移動しながらバーコードデータを収集する作業に適しています。

XIT-120-Mは Bluetooth 通信でファイルの送受信を行うことができます。Bluetoothは ver 1.1 に準拠し、見通し最大 10m の通信が可能です。



1-3-1 データ通信の準備

XIT-120-M を使ってコンピュータとのデータ通信を行なうためには、次の設定を行なってください。

■Bluetooth 通信

	項目	解説	参照ページ
①	端末 ID の設定	各 XIT-120-M に識別用の ID 番号を設定します。「BluePorter」や「WebGlider-X Lite」、「B-Spider」ではこの ID を使って端末を識別します。	P.3-30
②	Bluetooth デバイスの設定	通信に必要な、接続先の登録やセキュリティなどを設定します。	P.3-35

1-3-2 データ通信の方法

■Bluetooth 通信

Bluetooth 通信の手順は次の通りです。

操作手順

- ①「BluePorter」や「B-Spider を使用したアプリケーション」がインストールされているホストコンピュータを起動します。
- ②Bluetooth USB アダプタをコンピュータの USB アダプタに接続してください。
- ③「BluePorter」や「B-Spider を使用したアプリケーション」を起動して、ファイルの送受信に必要な設定を行ないます。
- ④XIT-120-M の電源を ON にして、接続先などの設定を行ないます。
- ⑤ファイルを送受信します。
 - ・XIT-120-M からホストコンピュータにファイルを送信する場合>P. 3-26
 - ・XIT-120-M がホストコンピュータからファイルを受信する場合>P. 3-20

1-4 製品仕様

CPU		32 ビット RISC CPU
OS		μITRON
メモリ	ROM	16MB (内 12MB がファイル領域) ----- ダウンロードファイルは 6MB が上限。また拡張子が wav、out のダウンロードファイルは 5MB が上限。
	RAM	16MB (内 6MB がファイル領域)
スキャナ部	読取りコード	NW-7、CODE39、JAN-13/8 (アドオン可)、UPC-A/E、インダストリアル 2of5、ITF、CODE93、CODE128、EAN128、RSS-14 (Stack 可)、RSS Limited、RSS Expanded (Stack 可)、QR コード、PDF417 (MicroPDF 可)、DataMatrix、MaxiCode、カスタムコード、EAN/UCC Composite
	読取り桁数	最大 7089 桁 (データ桁)
	読取り幅	最大 360mm
	エイミング	赤色光半導体レーザ
	レーザクラス	クラス 1 (JIS C 6802)
	最大出力	0.7mW
	波長	650±5nm
	MRD	25%以上
	分解能	フォーカス=近距離:一次元=0.127mm、二次元=0.169mm フォーカス=遠距離:一次元=0.191mm、二次元=0.254mm
表示 LED	SCAN LED	緑/赤/橙
	ALARM LED	橙
LCD 表示部	表示素子	FSTNドットマトリックス
	表示ドット数	132 (W) × 128 (H)
	表示文字数 (漢字)	10 桁 × 10 行 (12ドットフォント) 8 桁 × 8 行 (16ドットフォント)
	表示文字数 (半角文字)	20 桁 × 10 行 (12ドットフォント) 16 桁 × 8 行 (16ドットフォント)
	表示面積	38 (W) × 44 (H) mm
	表示文字	JIS 第一・第二水準漢字、ANK、記号、外字 (横倍角、縦倍角、4 倍角可能)
	コントラスト調整	8 段階
	バックライト	白色 LED (輝度調整可能)
スピーカ		スピーカによるビープ音、音声再生 読取り時、各種エラー時に鳴動 (ユーザ指定可能)
バイブレータ		読取り時、各種エラー時に振動 (ユーザ指定可能)
キー入力部	キー数	27
寸法		58 (W) × 162 (D) × 48 (H) mm グリップ部 45 (W) × 26 (H) mm

重量			約 220g (バッテリーカートリッジ含む)
本体充電機能			有り(ただし充電中の環境は充電器の温度仕様に従う)
電源	メインバッテリー		リチウムイオン二次電池
	バックアップバッテリー		リチウム二次電池(メンテナンスフリー)
環境	使用温度		-5～50℃
	使用湿度		20～80% (ただし結露無きこと)
	保存温度		-10～60℃
	保存湿度		10～90% (ただし結露無きこと)
	防滴・防塵		IEC IP54(旧 JIS 規格「防塵・防まつ形」相当)
	耐落下強度		1.2m(コンクリートに 6 面各 5 回落下)※ ¹
	照度条件		太陽光 96,900lx
連続使用時間			約 20 時間 設定条件 20 秒に 1 回読取り
時計機能			年(4 桁)月日時分秒/閏年補正あり、タイマー機能あり
無線部	Bluetooth	適合国際規格	Bluetooth Ver1.1 準拠
		適合国内規格	ARIB STD-T66
		通信方式	スペクトラム拡散方式(周波数ホッピング方式)
		無線周波数	2.4GHz 帯
		通信速度	最大 921.6kbps
		送信電力クラス	Class2
		アンテナ	本体に内蔵
		通信距離	最大 10m ※ ²

※1 試験値であり、保証値ではありません。

※2 安定した通信を行うためには、端末と Bluetooth USB アダプタまたは Bluetooth 通信ユニットの間に障害物がない状態で 2m 以内での使用を推奨します。

■端末充電中の SCAN LED の表示

端末充電中の SCAN LED の状態と意味は次の通りです。

LED の状態	意味
赤色点灯	端末の充電を行なっている。
緑色点灯	端末の充電が正常に完了した。
消灯	端末の充電中にエラーが起こった。

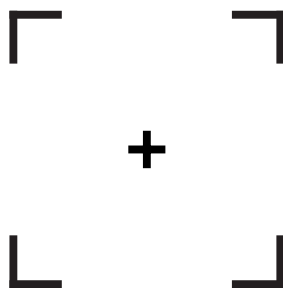
1-5 読取り仕様

■レーザ光の照射角度

XIT-120-M の読取り角度は、45°です。

■エイミング

エイミングパターンの中心の十字パターンをコードの中心に合わせ、読取り対象コードが枠の中に入るようにしてください。バーコードの種類によっては枠から出た場合には読取らないことがあります。コードによって読取り深度が変わってきますので端末を前後に動かして最適な読取深度で読取るようにしてください。



■イルミネーション LED

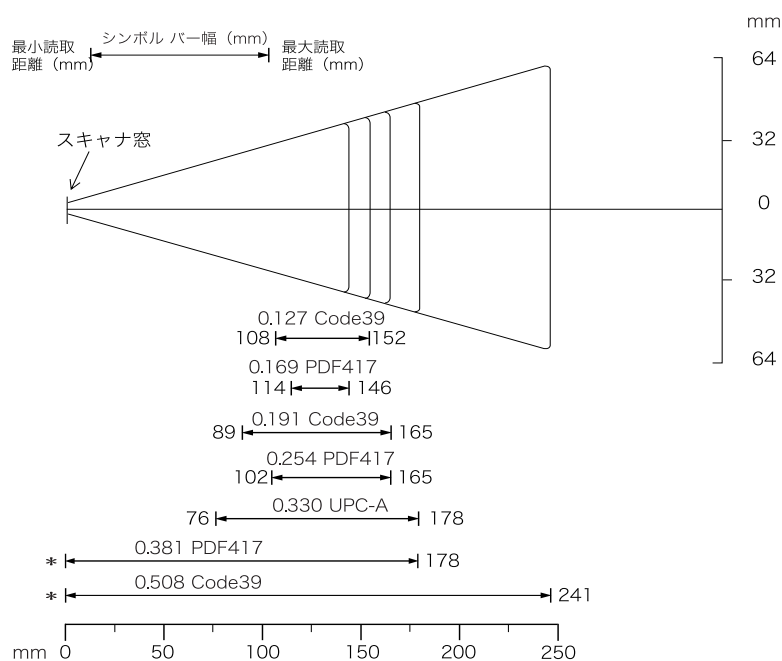
バーコード読取り時に点灯します。非常に明るい場合や、同一の対象の読取りを続けた場合は消灯する事があります。

■読取り深度

バーコードの読取り可能範囲のことを読取り深度といいます。XIT-120-M には「近距離」「遠距離」「オート」のフォーカスの設定があり、これらの設定により読取り深度が変化します。設定方法については「3-12-1 バーコード」(P.3-31)を参照してください。

XIT-120-M の読取り深度は次の図の通りです。

●近距離



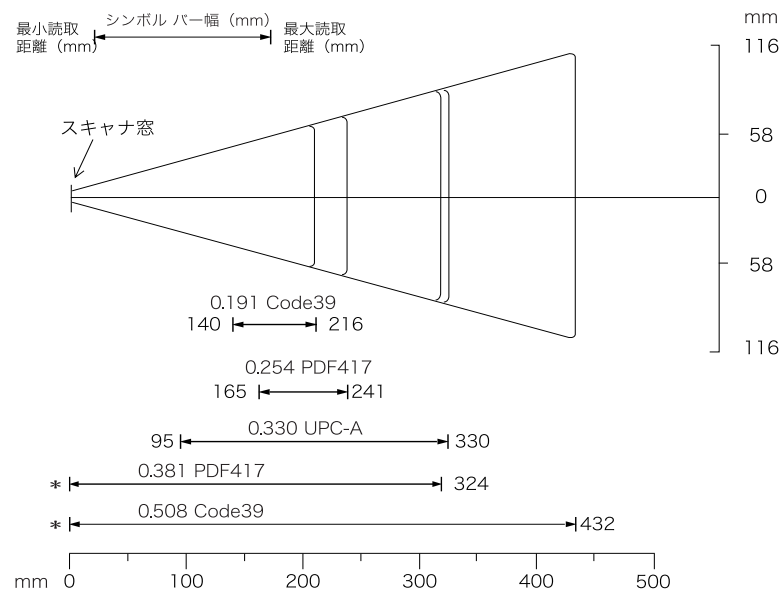
・読取り距離範囲

シンボル種類	(mm)	内容	最小読取り距離(mm)	最大読取り距離(mm)
Code39	0.127	ABCDEFGH	108	152
PDF417	0.169	縦 4、横 20	114	146
Code39	0.191	ABCDEF	89	165
PDF417	0.254	縦 3、横 17	102	165
UPC-A	0.330	012345678905	76	178
PDF417	0.381	—	※1	178
Code39	0.508	123	※1	241

ー表補足ー

- ・※1 はバーコードの長さにより距離が変わります。
- ・バーコードは Photographic quality symbols、MRD80%

●遠距離



・読取り距離範囲

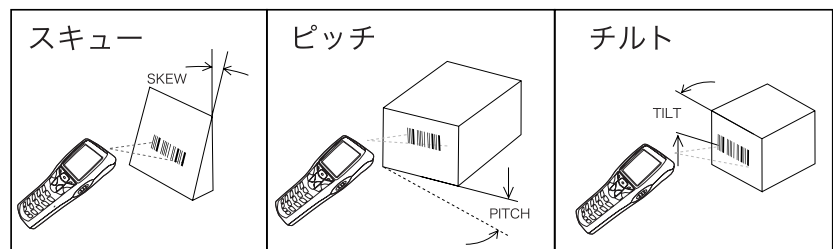
シンボル種類	(mm)	内容	最小読取り距離(mm)	最大読取り距離(mm)
Code39	0.127	ABCDEFGH	読取り不可	読取り不可
PDF417	0.169	縦 4、横 20	読取り不可	読取り不可
Code39	0.191	ABCDEF	140	216
PDF417	0.254	縦 3、横 17	165	241
UPC-A	0.330	012345678905	95	330
PDF417	0.381	—	※1	324
Code39	0.508	123	※1	432

ー表補足ー

- ・※1はバーコードの長さにより距離が変わります。
- ・バーコードは Photographic quality symbols、MRD80%

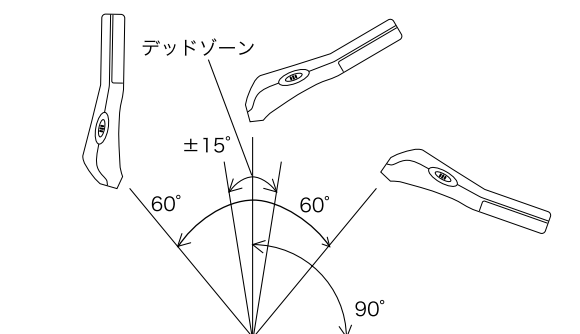
■バーコードの傾きと読取り可能角度

バーコードの傾きには次の 3 種類があります。



●スキュー

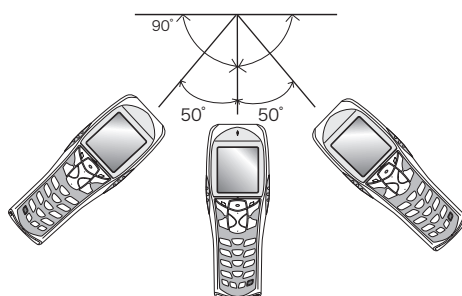
距離 127mm、分解能 0.508mm において、バーコードに対し、垂直の上下 60°まで読取り可能です。

**注意**

バーコード正面の垂直 $\pm 15^\circ$ は正反射によるデッドゾーンで、読取りが悪くなることがあります。上手く読取れない場合は、角度を変えて再度読取りを行なってください。

●ピッチ

距離 127mm、分解能 0.508mm において、バーコードに対し垂直の左右 50°まで読取り可能です。



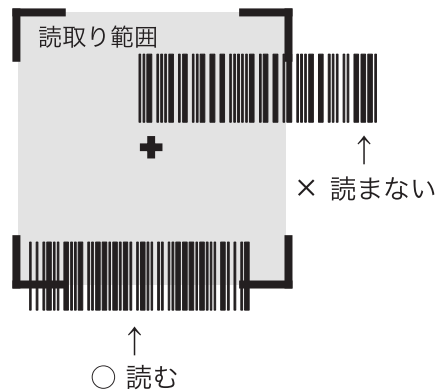
●チルト

距離 127mm、分解能 0.508mm において、バーコードに対する回転方向で 360°全ての角度で読取り可能です。

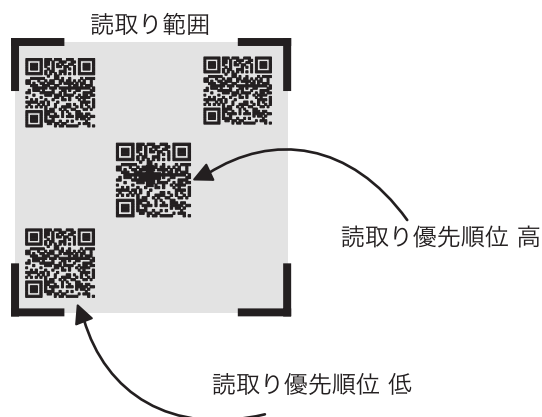


●読取り範囲

- ・ バーコードが読取り範囲から出てしまう場合



- ・ バーコードの読取り優先順位
(中心は読みやすく、周りは読みにくい)



注意

二次元コードは読取り範囲から出てしまうと読取れません。読取り範囲内に対象となるコードが入るようにエイミングを合わせてください。

1-6 充電仕様

1-6-1 本体充電

XIT-120-M は専用充電器 (QC-001/QC-002) を使用して、端末にバッテリーカートリッジを装着したまま充電ができます。端末に装着したまま充電中でもファイル送信等の動作は行なえますが、倒れたり充電端子の接触不良を起こす恐れがありますので、キー操作は行なわないでください。

1-6-2 シングルチャージャ (QC-001) を使った充電方法

端末とバッテリーカートリッジを同時にセットした場合は、端末の充電が優先されます。端末の充電が完了後にバッテリーカートリッジの充電を開始します。

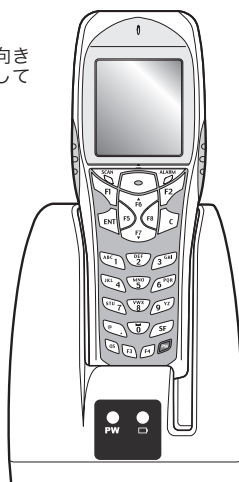
シングルチャージャ (QC-001) に同梱された連結金具を使用して、チャージャ同士を連結することができます (シングルチャージャ同士のみ)。ただし連結させたままの持ち運び等は、金具固定部に大きな負荷がかかりますので、取り扱いの際はご注意ください。4つ以上連結させる場合には、マルチチャージャ (QC-002) をご使用ください。

■バッテリーカートリッジを端末に装着して充電する

充電中は端末の SCAN LED が赤色に点灯し、充電が完了すると緑色が点灯します。充電時間は約 2.5 時間です。

充電器にセットする際は、端末の向きに注意してください。

端末は下向き
にセットして
ください。



充電中	SCAN LED が赤色点灯
充電完了	SCAN LED が緑色点灯
充電エラー	SCAN LED が消灯

注意

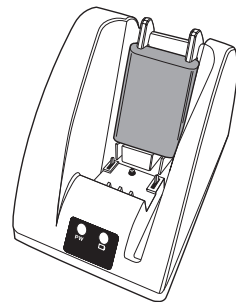
起動中の充電の際にエラーが起こった場合は、右の画面を 5 秒間表示してから電源が OFF になります。

< チャージ エラー >

充電中にエラーを検出した場合、端末を終了します。

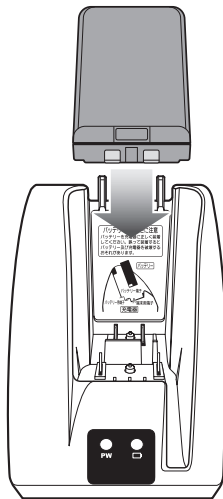
■バッテリーカートリッジ単体を充電する

充電中は充電器前面の電池マーク上部のバッテリー充電 LED が赤色に点灯し、充電が完了すると緑色が点灯します。充電時間は約 2.5 時間です。



充電中	バッテリー充電 LED が赤色点灯
充電完了	バッテリー充電 LED が緑色点灯
充電エラー	バッテリー充電 LED が消灯

充電器にセットする際はバッテリーカートリッジの向きに注意してください。



バッテリーカートリッジは、ラベル面を背中に向けて、端子を下向きにセットしてください。

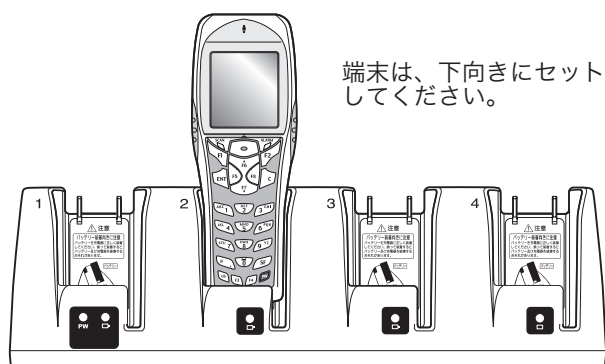
1-6-3 マルチチャージャ（QC-002）を使った充電方法

マルチチャージャ(QC-002)を使用して複数台の同時充電を行うことができます。
マルチチャージャの同番号にセットした端末とバッテリーカートリッジでは、端末の充電が優先され、端末の充電が完了後に自動的にバッテリーカートリッジの充電を行ないます。

■バッテリーカートリッジを端末に装着して充電する

充電中は端末の SCAN LED が赤色に点灯し、充電が完了すると緑色が点灯します。充電時間は約 2.5 時間です。
充電器にセットする際は、端末の向きに注意してください。

充電中	SCAN LED が赤色点灯
充電完了	SCAN LED が緑色点灯
充電エラー	SCAN LED が消灯



注意

起動中の充電の際にエラーが起こった場合は、右の画面を5秒間表示してから電源がOFFになります。

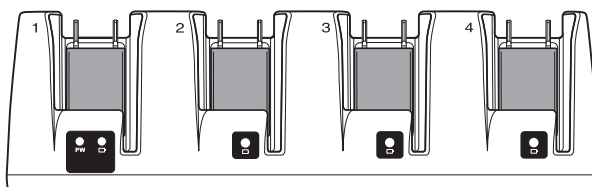
< チャージ エラー >

充電中にエラーを検出した場合、端末を終了します。

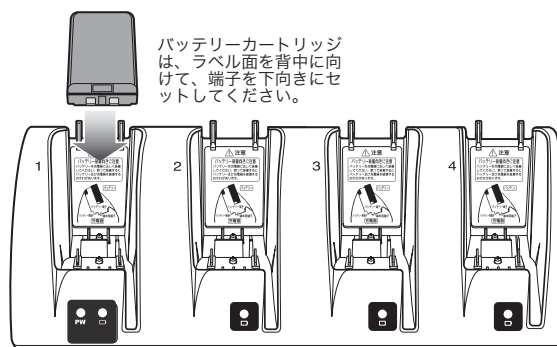
■バッテリーカートリッジ単体を充電する

充電中は各電池マーク上部のLEDが赤色に点灯し、充電が完了すると緑色が点灯します。充電時間は約2.5時間です。

充電中	バッテリー充電が赤色点灯
充電完了	バッテリー充電が緑色点灯
充電エラー	バッテリー充電が消灯



充電器にセットする際はバッテリーカートリッジの向きに注意してください。



注意

充電エラーが発生した場合、再度充電してもエラーが発生するようであればバッテリーカートリッジを外し、弊社営業までご連絡ください。また、エラーの発生したバッテリーカートリッジはご使用にならないでください。

1-7 バッテリーカートリッジ (HBC-51) について

1-7-1 ご使用時の充電

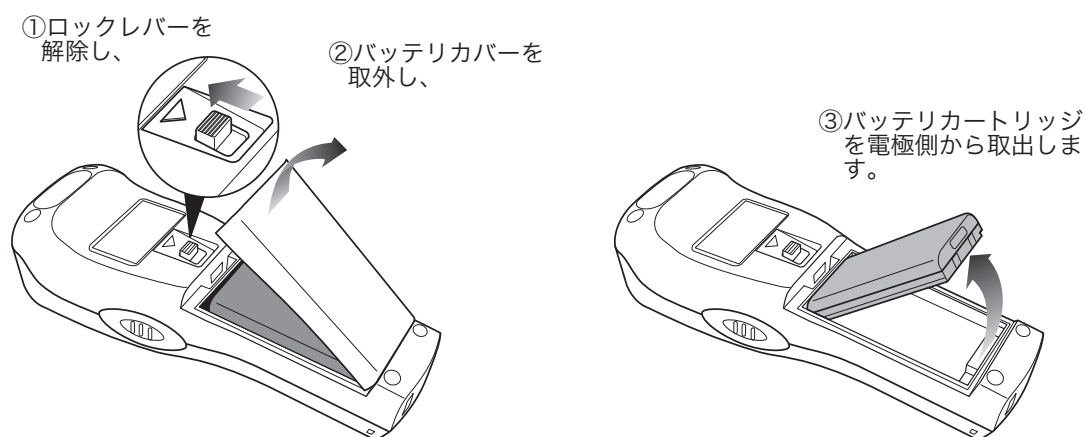
バッテリーカートリッジの取扱いの際は、必ず次のことに注意してください。

- ・ ご購入頂きましたバッテリーカートリッジは、必ず充電してからご使用ください。
- ・ 動作中にバッテリーカートリッジを取外すと、SDドライブに保存してあるファイルやレジューム情報が消失します。
- ・ バッテリーカートリッジおよび端末側の電極部は手で触ったり、ゴミが付着することがないようにしてください。接触不良の原因となります。
- ・ 汚れがついてしまった場合は、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ・ バッテリーカートリッジの取付けや取外しは、足の上に落下させないように机の上などで行ってください。
- ・ ご使用の際は、必ずバッテリーカバーを装着しバッテリーカバーロックをしてください。

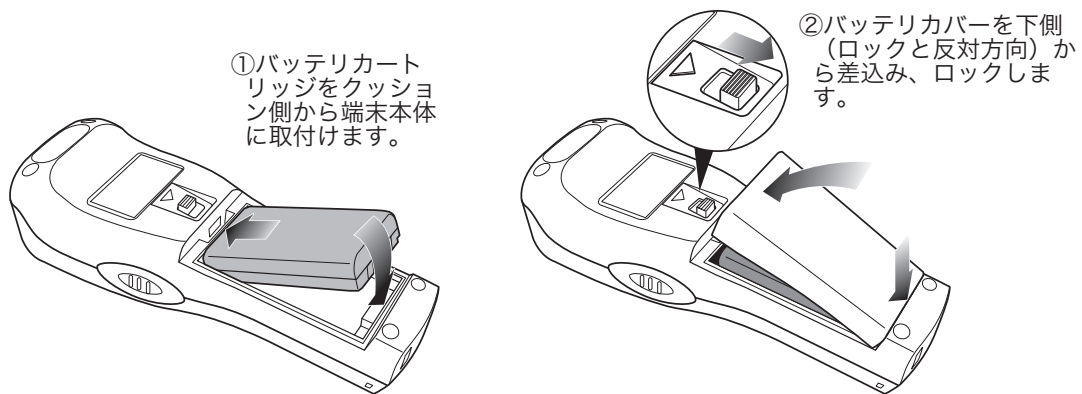
1-7-2 バッテリーカートリッジの取付け、取外し

バッテリーカバーには水の浸入を防ぐためのパッキンが取付けられています。バッテリーカバーを装着する際はパッキンに埃やゴミが付着していないか、パッキンが正しくはめ込まれているかを確認してください。ゴミ等の付着がある場合は、乾いた清潔な布で拭き取ってください。

■バッテリーカートリッジの取外し



■ バッテリーカートリッジの取付け



1-7-3 バッテリーカートリッジの消耗と交換

バッテリーカートリッジは消耗品です。正しい使い方をしても充放電を繰り返しているうちに徐々に劣化していく性質があります。

規定の時間充電しても使用時間が極度に短くなるようであれば、新しいバッテリーカートリッジに交換してください。



ご使用が завершиましたバッテリーカートリッジにつきましては、「使用済みバッテリーカートリッジ (HBC-51) について」 (P.vii) を参照してください。

1-7-4 電極の清掃に関する注意

バッテリーカートリッジの使用時間が短くなる、起動しにくくなる、突然電源が OFF になる等の症状が見られる場合、バッテリーカートリッジ劣化以外にも電極の汚れによる接触不良が原因となることがあります。汚れが原因の場合はバッテリーカートリッジ側、端末側の両方の電極を清掃することで症状が改善します。

● 電極の清掃方法

清潔で乾いた柔らかい布、綿棒等で電極の汚れを拭き取ってください。汚れた布や指、固い物では決してこすらないでください。また強く拭くと電極に傷がついたり、特に端末側の電極は変形する恐れがありますので、軽い力で拭くよう注意してください。

1-7-5 バックアップ電池の充電

バックアップ用電池の充電方法について説明します。

操作手順

- ① XIT-120-M (バッテリーカートリッジ無し) と満充電されたバッテリーカートリッジ 1 本を用意します。
- ② XIT-120-M にバッテリーカートリッジを装着すると、バックアップ用電池への充電が開始されます。バックアップ用電池が完全に消耗していた場合は、装着以降、最低 2 日間はバッテリーカートリッジを外さないでください。

1-8 メモリバックアップ期間

XIT-120-Mはファイルを保存する領域として、Fドライブ（不揮発性）とSドライブ（揮発性）の2つのドライブを持っています。ホストコンピュータからダウンロードしたアプリケーションデータはFドライブに保存されますので、バッテリーカートリッジが消耗してもデータの消失はありません（「2-1-1 データの格納場所」「■データの格納場所について（ドライブの構成）」（P. 2-2）を参照）。

■バッテリーカートリッジによるメモリバックアップ

バッテリー	バッテリーカートリッジ
用途	XIT-120-M の動作
充電時間	専用充電器を使用し、本体充電・バッテリーカートリッジ単体充電共に約 2.5 時間で充電を完了します。
バックアップ期間	満充電のバッテリーカートリッジを装着した場合のデータ保存期間は、以下の通りです。 ・ Sドライブのデータおよびレジューム情報：約 25 日
使用上の注意	動作中にバッテリーカートリッジを取外した場合は、Sドライブのデータ、およびレジューム情報が消失します。一時保存する場合は必ず [Ⓜ] キーを押して電源をOFFにしてからバッテリーカートリッジを取外してください。レジューム機能については「1-10 レジューム機能について」を参照してください。 端末を使用しないときにバッテリーカートリッジを外す（バックアップ電池によるメモリバックアップを活用する）ような運用を毎日繰り返すと、約半年でバックアップ期間が極端に短くなります。この場合バックアップ電池の交換（有償）が必要となりますので、電池交換時以外は常にバッテリーカートリッジを装着しておくことをお奨めします。

■バックアップ用電池によるメモリバックアップ

バッテリー	バックアップ用電池
用途	XIT-120-M に内蔵されている時計のデータを保持します。また、バッテリーカートリッジ交換時等、ある一定期間内のみ S ドライブデータを保存します。 レジューム機能を有効に設定したときはレジューム情報を保存します。
充電時間	XIT-120-M に満充電のバッテリーカートリッジを装着してから約 2 日
バックアップ期間	通常終了 ^{※1} 後にバッテリーを取外した場合のデータ保存期間は以下の通りです。 ・ S ドライブのデータおよびレジューム情報 (レジューム機能有効時): 約 15 時間 ・ 内蔵時計のデータ: 約 6 ヶ月 長期保管メニュー ^{※2} による終了をした場合のデータ保存期間は以下の通りです。 ・ 内蔵時計のデータ: 約 1 年 (バッテリーカートリッジの有無を問わず)
使用上の注意	端末の長期保管の詳細は「1-9 長期保管について」(P.1-22)を参照してください。 バックアップ用電池の消耗により消失したデータは復元できません。一時保存以外のデータは F ドライブに保存するようにしてください。

※1 通常終了: (PW)キー押下後にバッテリーカートリッジを取外す終了方法

※2 長期保管メニューによる終了: システムメニューから長期保管を選択する終了方法

注意

メモリバックアップの期間は温度等の周囲環境で大きく変わり、0℃以下の場所もしくは 40℃以上の場所で保存すると、バックアップ期間が急激に短くなります。バッテリーカートリッジは室温での使用・保存をお奨めします。

1-9 長期保管について

■端末の長期保管について

端末を長期間(6ヶ月以上)使用しない場合、システムメニューから長期保管の設定をすることをお奨めします。

長期保管を設定するとすぐに電源が切れます。

長期保管を設定すると S ドライブのデータとレジューム情報は消失しますが、内蔵時計のデータは保持し続けますので、バックアップ電池の消耗を抑えることができます。

長期保管の設定方法については「3-13-6 長期保管」(P.3-55)を参照してください。

■バッテリーカートリッジの長期保管について

長期間バッテリーを使用しない場合は、端末を上記の長期保管設定にしてからバッテリーカートリッジを取外し、50%程度の充電状態で涼しい場所に保管することをお奨めします。満充電、および高温環境下での保管はバッテリーカートリッジの寿命を縮めることになります。

1-10 レジューム機能について

XIT-120-M はレジューム機能をサポートしており、システムメニューの設定によってⓅキーによる電源 ON 時の動作を選択することができます。設定方法等については「3-8-3 レジューム」(P.3-15)を参照してください。

レジューム機能有効	Ⓟキーを押下して XIT-120-M の電源を OFF した後、次にⓅキーで起動すると、電源 OFF の直前に実行されていた処理から動作を再開します。
レジューム機能無効	Ⓟキーを押下して XIT-120-M の電源を OFF した後、次にⓅキーで起動すると、常に処理が最初から実行されます。

注意

端末動作中にバッテリーカートリッジを外した場合は、レジューム機能の有効・無効に関係無く最初からプログラムが実行されるのでご注意ください。

注意

バックアップ用電池が消耗した場合、レジューム機能の有効・無効に関係無く、最初からプログラムが実行されるのでご注意ください。バックアップ用電池の充電については「1-7-5 バックアップ電池の充電」(P.1-19)を参照してください。

1-11 画面出力キャラクタ

■全角文字

シフト J I S	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
f040	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
f050	N _U	S _H	S _X	E _X	E _T	E _Q	A _K	B _L	B _S	H _T	L _F	V _T	F _F	C _R	S _O	S _I
f060	D _L	D ₁	D ₂	D ₃	D ₄	N _K	S _Y	E _B	C _N	E _M	S _B	E _C	F _S	G _S	R _S	U _S
f070	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	Ⓟ	Ⓒ	Ⓟ	Ⓢ	Ⓢ	
f080	⊖	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ
f090	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ
f0a0		Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ
f0b0	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ
f0c0											→	↑	←	↓	↕	↔
f0d0					⇒	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨
f0e0					⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	⇨	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ	Ⓜ
f0f0	J _A N	U _P C	N _W 7	I _T F	I _N D	C ₃ 9	C ₁₂₈	E ₁₂₈	M _R X	M _X I	W _P C	I _N T	C ₉ 3	R _S S	P _D F	Q _R

■半角文字

上 位 下 位	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		⌈		0	@	P	'	p	△		┐	ー	タ	ミ		
1	⌋		!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2	⌋	↕	"	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3	⌋		#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4	⌋	▨	\$	4	D	T	d	t			,	エ	ト	ヤ		
5	⌋	⌋	%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6	=	⌋	&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7	↓	⌋	'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8			(	8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9	○	⌋	)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A		▨	*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B	⊗	←	+	;	K	[	k	{			オ	サ	ヒ	ロ		
C		↑	,	<	L	¥	l				ヤ	シ	フ	ワ		
D			-	=	M	]	m	}			ユ	ス	ヘ	ン		S
E	■	→	.	>	N	^	n	—			ヨ	セ	ホ	ゝ		入
F	※	←	/	?	O	_	o				ツ	ソ	マ	°		力

第2章

ソフトウェア編

2-1 ソフトウェアについて

XIT-120-Mのソフトウェアは、次の2種類で構成されています。

システムプログラム	XIT-120-M の基本動作を制御するプログラムです。パソコンの OS (基本ソフトウェア) に相当するもので、あらかじめ XIT-120-M に搭載されています。基本的な動作パラメータの設定や各種確認作業を行なう「システムメニュー」はシステムプログラムの一部です。
アプリケーションプログラム	ユーザ業務処理の際に使用するプログラムです。バーコードの読取りや、コンピュータへのデータ転送などは、主にこのプログラムを使用します。「WebGlider-X Lite」をご購入頂くと、WebGlider-X Lite ブラウザとの組み合わせで容易にアプリケーションを開発することができます。



システムメニューについての詳細は、「第3章 システムメニュー」(P.3-2)をご覧ください。

「WebGlider-X Lite」についての詳細は、製品パッケージに付属のオンラインマニュアルをご覧ください。

2-1-1 データの格納場所

■データの格納場所について（ドライブの構成）

XIT-120-Mにはデータを格納する領域として、FドライブとSドライブの2つのドライブを持っています。

ドライブ	データ保持	用途	最大保存数
Fドライブ	●不揮発性メモリ バックアップ用電池が消耗した後も、ドライブのデータは保持されます。	アプリケーション、データベースマスターファイル、データファイル等、全てのファイルを格納するための領域として使用します。	64 ファイル
Sドライブ	●揮発性メモリ 動作中にバッテリーカートリッジを突然外したときや、バックアップ用電池が消耗した後は、ドライブのデータは消失します。	アプリケーションの動作中に一時的なファイル(テンポラリファイル)を格納するための領域として使用します。	64 ファイル

ファイルはまず Sドライブで受信し、その後 Fドライブへ移動し格納されます。

ファイルの受信と格納のために、Sドライブ、Fドライブともに十分な空き領域があることをご確認ください。

受信時に Sドライブに同名のファイルが既にある場合は、既にあるファイルが消去されます。

■ファイル名について

XIT-120-M で使用できるファイル名には、次の制限があります。

ファイル名の長さ	拡張子を含め 31 バイト以内
使用可能文字	次の文字を任意に組み合わせて作成可能 ・ アルファベット (A～Z) ・ 数字 (0～9) ・ 一部の記号 (!#%&'()@^_{}~) ・ 半角スペース ・ SHIFT JIS の全角文字
その他の制限事項	ファイル名の先頭にスペースと「.」(ピリオド)は使用不可

■拡張子について

XIT-120-M は幾つかの拡張子でファイル種別を認識しています。

「.OUT」	アプリケーションとして認識
「.WAV」 「.MP3」 「.SFL」	音声データとして認識 XIT-100-B で再生できる WAV ファイル及び MP3 ファイルにはフォーマットの制限があります。(P.3-22) SFL は独自形式のテキストファイルです。(P.3-22)
「.BMP」	画像(ビットマップ)として認識 XIT-100-B で表示できるビットマップファイルにはフォーマットの制限があります。(P.3-22)

■システムやアプリケーションが作成するファイル

XIT-120-M のシステムプログラムや、アプリケーションプログラムの一部はテンポラリファイルや設定保存用のファイルを作成します。ファイル数が多すぎる、またはドライブに空き容量が無い等の理由でこれらのファイルが作成できないとき、各プログラムは正常に動作できなくなります。

システムプログラムは、システムメニューの設定値を保存するために F ドライブにレジストリファイルを作成します。ファイルは 4 本作成されますが、隠しファイルとなっていますのでシステムメニューでは表示されません。

アプリケーションプログラム中で、SQLite ライブラリをお使いの場合は、データベースの動作中にテンポラリファイル 1 本を S ドライブに作成します。ファイル名は既存のファイルと重複しないようにランダムで生成されます。

2-2 システムメニューについて

システムメニューでは、XIT-120-M の基本的な動作設定やアプリケーションプログラムのインストール、データファイルの転送などを行います。

システムメニューについての詳細は、「第 3 章 システムメニュー」(P.3-2)をご覧ください。

第3章

システムメニュー編

3-1 はじめに

システムメニューはシステムプログラムを構成する機能の一部として、XIT-120-M の環境設定やアプリケーションのプラットフォームなど、様々な機能を提供します。お客様の使用環境に合わせた設定をして頂くことで、より効率良く XIT-120-M をご使用頂けます。

この章では、「システムメニュー」の使い方を中心に、XIT-120-M の動作設定や各種確認作業について説明します。

3-2 設定値の保存

3-2-1 レジストリ

システムメニューにて設定された各種パラメータは、「レジストリ」と呼ばれます。

なお、これらのレジストリファイルは隠しファイルのため、システムメニューでは表示されません。また、F ドライブに保存されるためバックアップ電池が消耗しても消えることはありません。

レジストリは以下の 5 つに分類されています。

ユーザレジストリ	一般的な設定値です。システムメニューで設定された項目の大部分はユーザレジストリになります。
セキュリティレジストリ	パスワードや PIN コードなど、セキュリティに関連する設定値です。
ユニークレジストリ	Bluetooth のローカル BD アドレスや端末 ID といった、一般的に他の端末とは重複することのない、その端末に固有の設定値です。
システムレジストリ	XIT-120-M が独自に使用する設定値です。システムメニューから設定、参照することはできません。
デバイスレジストリ	電池残量等、端末動作中にリアルタイムに変化するパラメータを参照するための項目です。デバイスレジストリに属する設定値はアプリケーションからの参照のみが可能で、システムメニューから設定することはできません。

デバイスレジストリを除く 4 種類のレジストリは、それぞれ独立したファイルに保存されます。このため、XIT-120-M の F ドライブには常に 4 本のファイルが格納されています。レジストリはファイルとして F ドライブに保存されますので、バックアップ電池が切れても消えることはありません。

デバイスレジストリは端末の動作状態によって変化するレジストリですので、ファイルには保存されません。

各設定値がどのカテゴリに属するのかは、「付録 A-1 システムメニュー出荷時設定一覧」(P.A-2)をご覧ください。

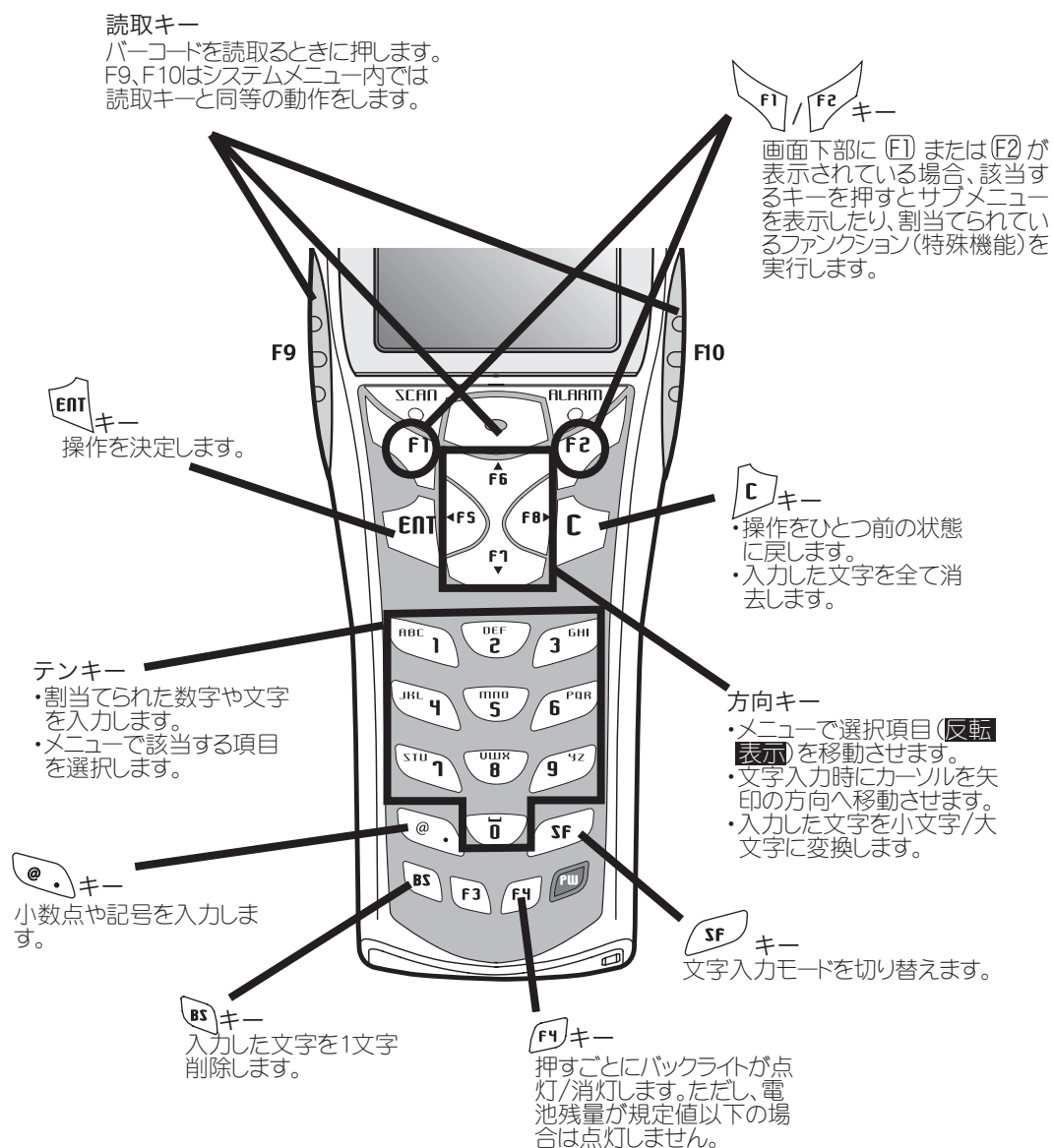
クローン機能 (P.3-51) を使用すると、他の端末にレジストリをコピーし、オリジナルの端末と同じ設定の端末を複製することができます。

「初期化」メニュー (P.3-49) を使用すると、レジストリを消去し、工場出荷時の設定に戻すことができます。

3-3 キー名称と機能

システムメニューで使用するキーと機能について説明します。

本マニュアルでは各キーを下記のように表記します。



■キーの文字割当て一覧

キー	数字入力モード	英字入力モード
	1	ABC
	2	DEF
	3	GHI
	4	JKL
	5	MNO
	6	PQR
	7	STU
	8	VWX
	9	YZ
	0	␣(スペース)
	・	\$-+/%:#@&

3-4 システムメニューの操作

システムメニューの基本的な操作方法について説明します。

■メニューから目的の項目を選択する

●項目を選ぶ

選択中の項目は**反転表示**されます。

各項目に該当する①～⑨キーを押すか、方向 (F5)～(F8) キーを使用して反転表示を移動します。

●項目を決定する

[F9]キーを押すと、選択中の項目を決定します。

決定後の動作は項目により異なります。

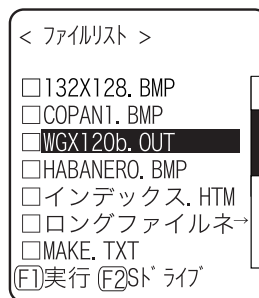
- ・ 該当する機能を実行
- ・ [はい]または[いいえ]の意思表示(チェックボックス)
- ・ 次のメニューを表示
- ・ サブメニューを表示

●選択を中止する

⑩キーを押すと1つ前の操作に戻ります。

●画面の表示について

メニュー項目が1画面で収まらない場合は、画面右側に垂直スクロールバーが表示されます。また、項目名が1行に収まらない場合、項目名の最後が『→』に変換されて表示されます。



■バーコードでデータを入力する

●バーコードを読取る

読取りキーを押してエイミングパターンとイルミネーションLEDを照射し、コードをスキャンします。

エイミングパターンとイルミネーションLEDの照射時間やスキャン時の動作等はトリガモードで設定します。なお、バーコードテストはトリガモードの影響を受けません。

●バーコードの読取り条件

データ入力において読取可能なバーコードは次の通りです。

NW-7、CODE39、JAN13/8 (アドオン不可)、UPC-A/E、インダストリアル 2of5、ITF、CODE93、CODE128、EAN128、RSS-14 (Stack 可)、RSS Limited、QRコード、PDF417 (MicroPDF 不可)、DataMatrix、MaxiCode、カスタムコード

■キーでデータを入力する

●文字入力モードを切り替える

XIT-120-Mではテンキーと○キーを使って文字を入力します。

入力できる文字は数字、英字(大/小)、記号があり、入力する文字によって入力モードを切り替えます。^{※1}

・「数字入力モード」

数字、および小数点が入力できます。

・「英字入力モード」

英字(大/小)や記号が入力できます。

Ⓢキーを押すごとに入力モードが切り替わります。^{※1}

●数字を入力する

文字入力モードを数字入力モード(カーソル:■(矩形))にします。

①～⑨キー、または○キーを押すと該当する数字、または○を入力します。

●英字を入力する

文字入力モードを英字入力モード(カーソル:_(下線))にします。

①～⑨キーを押すと割当てられている英字を入力します。

同じキーに割当てられている英字を続けて入力する場合は、F8キーを押してカーソルを移動させ、次の英字を入力します。

F6/F7キーを押すとカーソル位置の英字を大文字⇄小文字に変換します。^{※2}

●記号を入力する

文字入力モードを英字入力モード(カーソル:_(下線))にします。

⑩キー、または○キーを押すと割当てられている記号を入力します。

同じキーに割当てられている記号を続けて入力する場合は、F8キーを押してカーソルを移動させ、次の記号を入力します。

カーソルが入力したデータの末尾にあるとき、F8キーを押すとスペースがカーソルの右側に挿入されます。^{※2}

●入力したデータを確定する

Ⓢキーを押します。

●文字を削除する^{※3}

Ⓢキーを押すとカーソル位置の文字を1文字削除します。

Ⓢキーを押すと全ての文字を消去します。

●入力を中止する

文字を削除できない項目^{※3}では、Ⓢキーを押すと直ちに入力を中止します。

文字を削除できる項目では、入力した文字を全て削除した後でⓈキーを押します。

●その他

入力文字数が登録可能な文字数を超えた場合、カーソルは先頭に戻ります。

^{※1} 入力可能な文字種が制限されている項目(例:端末IDは数字のみ)は、入力モードを切り替えられません。

^{※2} 項目により入力できる文字数が制限される場合があります。

^{※3} 入力フォーマットが固定の項目(例:IPアドレス)では文字を削除できません。本マニュアルでは入力フォーマット固定の項目に右記アイコンをつけて表記します。



■その他の操作

●1つ前の状態に戻る

Ⓒキーを押します。

●チェックボックスを操作する

正方形の中にチェックをつけたり(☑)外したり(□)することで、その項目を選択/非選択します。Ⓔキーを押すごとに選択/非選択が切り替わります。

Ⓔキーを押すごとに「はい」「いいえ」が切り替わります。

チェックボックスは同時に複数項目を選択する場合にも使用されます。

●ラジオボタンを操作する

小さな円状のボタン(●)の中が塗りつぶされている項目が、現在有効であることを表しています。

ラジオボタンは複数の項目から1つだけを選択する場合に使用されます。

●メッセージボックスを操作する

ボックス内の下部に「はい」や「いいえ」などボタンが2つ表示されている場合は、①または、②キーを押すか、方向(Ⓔ9～Ⓔ8)キーを使用してボタンを選択(反転表示)し、Ⓔキーで決定します。Ⓒキーを押すと右側のボタンが選択されたことになります。

「OK」のようにボタンが1つだけの場合はⒺキーまたはⒸキーを押します。

●レベルメーターを操作する

設定値を段階ごとに調節します。

Ⓔ6/Ⓔ7キーでスライダーを上下させ、Ⓔキーでレベル値を決定します。

Ⓒキーを押すと設定を中止します。

●バックライトを点灯/消灯する

Ⓔ4キーを押すごとにバックライトが点灯/消灯します。ただし電池残量が規定値以下の場合、バックライトは点灯しません。

●サブメニュー/ファンクションを呼出す

画面の下部にⒺ1またはⒺ2が表示されているときに、該当するキーを押すとサブメニューを表示したり、ファンクション(特殊機能)を実行します。

●操作時のインジケータを変更する

操作時に作動するインジケータ(ブザー/音声/バイブレータ/LED)は、お客様独自の設定に変更することが可能です。変更方法については「**■インジケータ**」(P.3-43)をご覧ください。

この設定を変更することで、お客様独自のインジケータが簡単に作成できます。

なお、一部インジケータが適用されない操作があります。

3-5 電池残量について

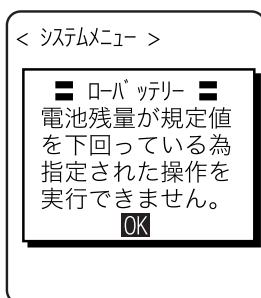
バッテリーカートリッジの電池残量が少なくなると、操作が制限されたり、電源が OFF になります。

●現在の電池残量を確認する

システムメニューから「6:メンテナンス」→「1:電池残量」で確認できます。

●電池残量が少ない場合の操作制限

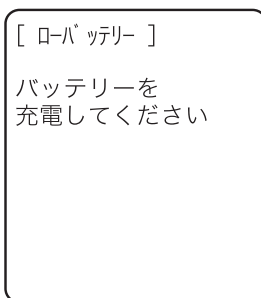
システムメニューの一部の操作では、実行時の電池残量が規定値（操作により異なります）を下回る場合、操作が制限されます。



本マニュアルでは制限対象の操作に  のアイコンをつけて表記します。

●電池切れアラーム

下記の画面とブザーで電池が切れたことをお知らせします。



約5秒後に強制的に電源を OFF にします。

3-6 システムメニューの起動

3-6-1 起動方法

操作手順

- ① バッテリーカートリッジが正しく装着され、電源が OFF の状態で、**[PW]**キーを 1 秒程度押し続けると XIT-120-M の電源が ON になりシステムメニューが起動します。
- ② オープニング画面の表示後に、システムメニューが表示されます。

< システムメニュー >

1:システム	5:デバイス
2:受信	6:メンテナンス
3:ファイル	7:テスト
4:端末ID	

自動実行プログラム (P.3-13) にアプリケーションが選択されている場合は、読取りキー (F9、F10 は除く) を押しながら **[PW]**キーを押すと、システムメニューが起動します。

3-6-2 設定ウィザードの実行

端末をご購入後、初めての起動時には、端末とサーバ間での通信に最低限必要な設定を行うための設定ウィザードが実行されます。

< 設定ウィザード >

設定ウィザードを実行しますか？
通信に最低限必要な設定をガイド付きで行うことができます。
[はい] いいえ

[はい] または [いいえ] を選択してください。

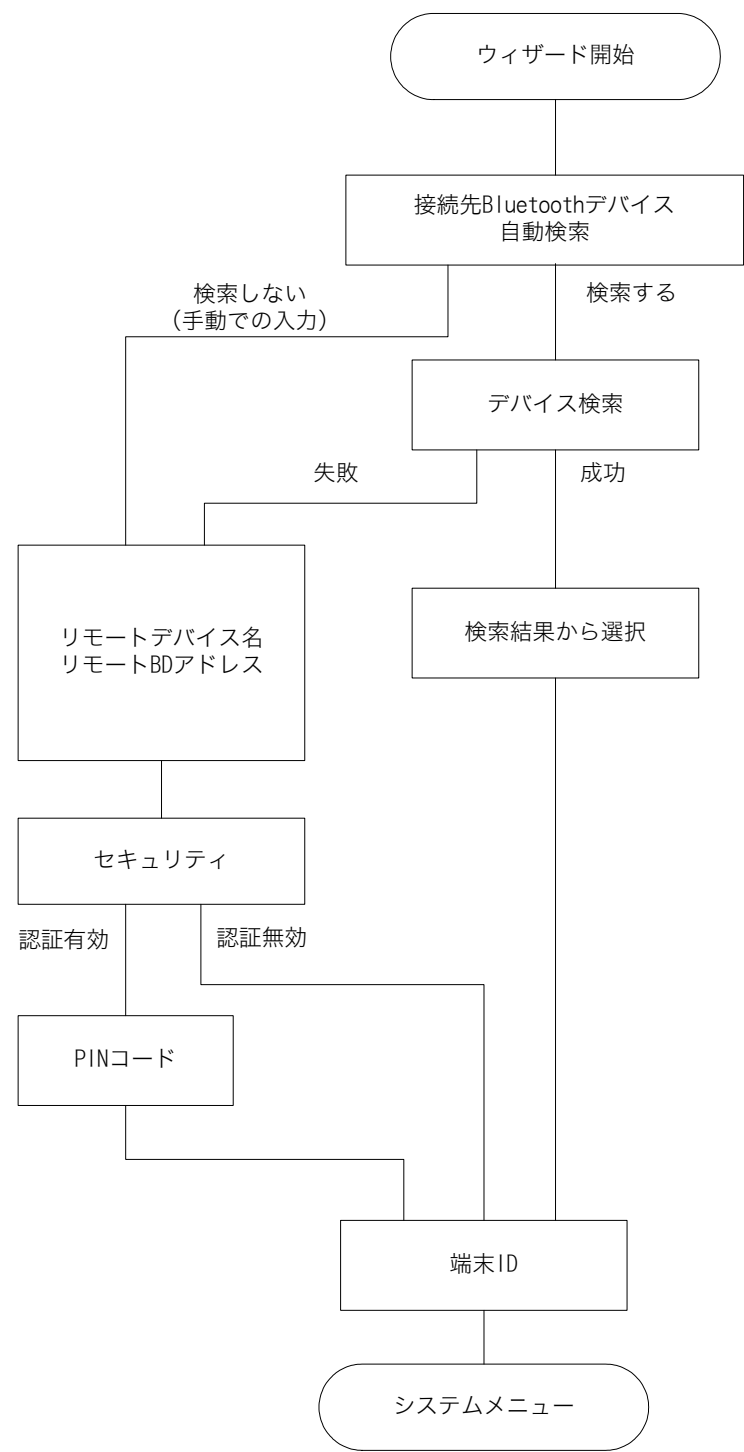
[はい] を選択すると、リモート Bluetooth デバイスと端末 ID の設定を行うウィザードが実行されます。[いいえ] を選択するとシステムメニューが起動します。

[いいえ] を選択して設定ウィザードをスキップするか、設定ウィザードを実行して最後まで設定を完了すると、次回起動時以降設定ウィザードは起動しません。



設定ウィザード内で入力する各項目は、システムメニューで個別に設定することができます。また、システムメニューから設定ウィザードを任意で実行することもできます (3-55 参照)。

設定ウィザードでは、次の図の流れに沿って各項目を設定します。途中の選択枝の分岐によって、それに付随する項目が異なります。



3-6-3 BHCP リクエストの実行

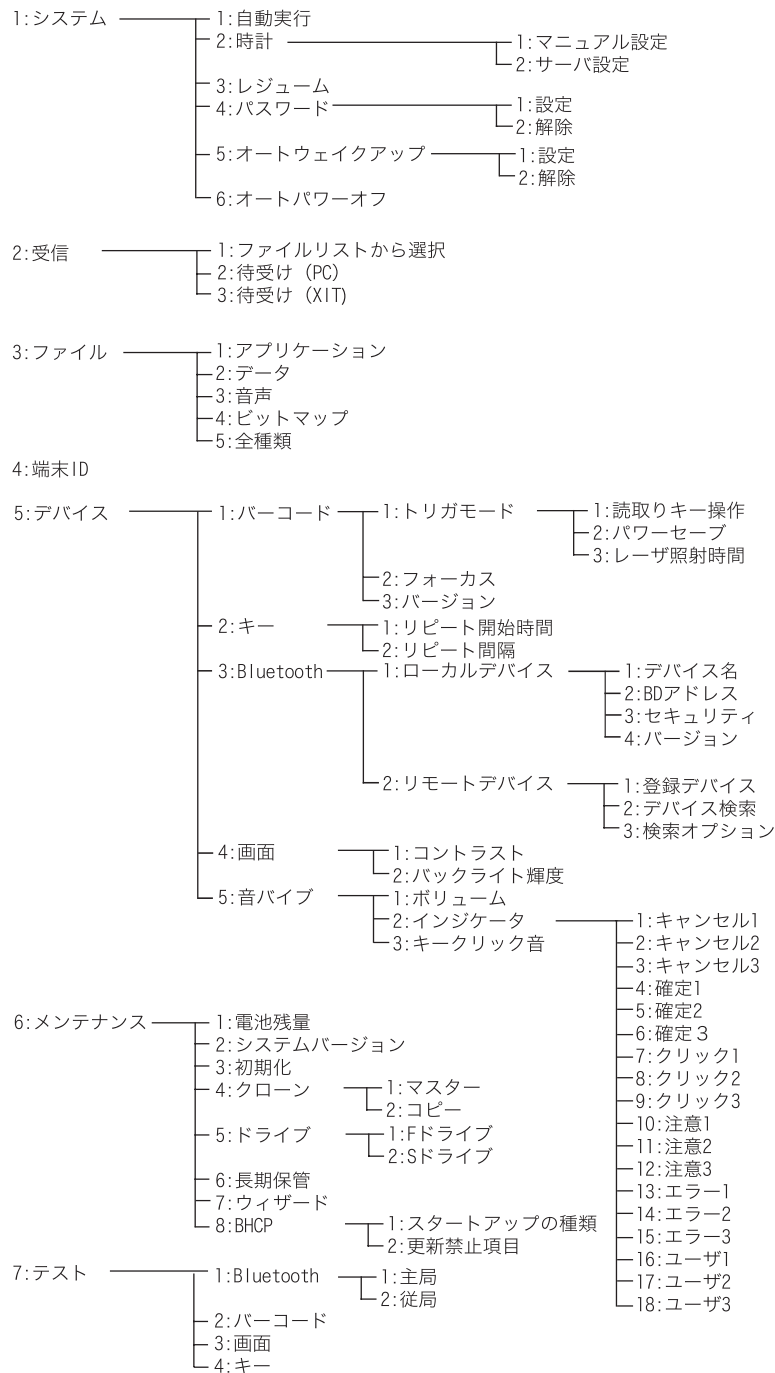
「■スタートアップの種類」(P.3-56)が[アプリケーション起動時]、[システムメニュー起動時]に設定されている場合は、毎起動時に BHCP リクエストが実行されます。

BHCP とは、弊社独自のプロトコルにより、Bluetooth 通信で端末のシステム設定やファイルのダウンロードができる機能のことです。本機能を使用するには、Bluetooth 通信ユニット (IU-002) や LAN 対応通信コントロール「B-Spider」(WLF-002)が別途必要です。

[アプリケーション起動時]が選択され、かつ自動実行プログラムにアプリケーションが選択されている場合は、BHCP リクエストが実行された後にアプリケーションが起動します。

3-7 システムメニュー一覧

システムメニューは機能毎にカテゴライズ(分類)された階層構造になっています。



システムメニューの出荷時設定については、「付録 A-1 システムメニュー出荷時設定一覧」(付録 A-2)を参照してください。

3-8 システム設定カテゴリ

XIT-120-M をより快適にご使用頂くための便利な機能を設定します。これらのシステム設定は、BHCP 機能を使用すると、自動的に登録することも可能です(パスワードの設定は除く)。

BHCP 機能を使用するには、別途、Bluetooth 通信ユニット(IU-002)や LAN 対応通信コントロール「B-Spider」(WLF-002)が必要です。

操作手順

- ①システムメニューから「1:システム」を選択します。

< システム設定 >

1:自動実行
2:時計
3:レジューム
4:パスワード
5:オートウェイクアップ
6:オートパワーオフ

設定する項目を選択します。

- ・ 自動実行
- ・ 時計
- ・ レジューム
- ・ パスワード
- ・ オートウェイクアップ
- ・ オートパワーオフ

3-8-1 自動実行

電源を ON した際に起動するアプリケーションプログラムを登録します。出荷時設定はシステムメニューです。

操作手順

- ①システム設定カテゴリから「1:自動実行」を選択します。

< 自動実行 >

◎システムメニュー
○WGX120B. OUT

[F] 情報

一覧からシステムメニュー、またはアプリケーションプログラムを選択します。

現在登録されているプログラムのラジオボタンが塗りつぶされています。

< ファイルの情報 >

ファイル名
[WGX120B. OUT]
種類[ファイル]
ライブラリ[1.00]
サイズ[00615834] バイト
更新日時
[2005/04/01]
[00:00:00]

[F]キーを押すと**選択中**のアプリケーションに関する情報が表示されます。

◎キーを押すと1つ前の画面に戻ります。

3-8-2 時計

現在時刻の確認、および時刻を設定します。

手動による設定(マニュアル設定)の他、Bluetooth を使ってホストコンピュータの時刻に合わせること(サーバ設定)も可能です。

■現在の時刻

操作手順

①システム設定カテゴリから「2:時計」を選択します。

< 現在の時刻 >

2005/04/01 (金)
00:00:00

1:マニュアル設定
2:サーバ設定

現在の時刻が表示されます。

設定する項目を選択します。

- ・ マニュアル設定
- ・ サーバ設定

■マニュアル設定



操作手順

①時刻データを入力します。



< マニュアル設定 >

2005/04/01 00:00:00

Enterキーを押すと時刻を確定します。

ESCキーを押すと設定を中止し、現在の時刻へ戻ります。

■サーバ設定

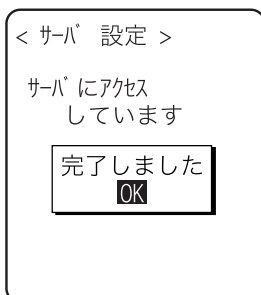


サーバ設定の際は、予め次のことを確認してください。

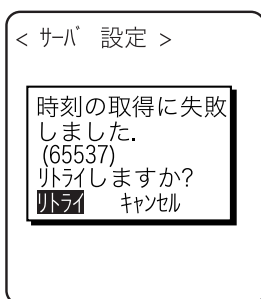
- ・ ホストコンピュータの電源が入っている
- ・ ホストコンピュータで「BluePorter」(WLF-001:別売)や、「B-Spider (WLF-002)を使用したアプリケーション」が起動している
- ・ XIT-120-Mのデフォルトデバイス設定にホストコンピュータのBD アドレス等が設定されている

操作手順

- ① ホストコンピュータの BluePorter、または「B-Spider (WLF-002)」を使用したアプリケーションから時刻データを受信します。



Ⓜキーまたはⓐキーを押すと、現在の時刻の確認へ戻ります。



受信に失敗した場合、左の画面が表示されます。

「リトライ」を選択すると、再度サーバから時刻データを受信します。

「キャンセル」を選択、またはⓐキーを押すと設定を中止し、現在の時刻へ戻ります。

3-8-3 レジューム

レジューム機能を設定します。レジューム機能を有効にすると、端末の電源を切ったときの状態を保存し、次回起動時にその続きから作業を継続することができます。

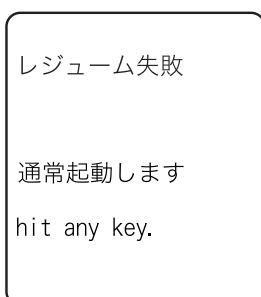
レジューム機能の詳細については「1-10 レジューム機能について」(P.1-23)を参照してください。

操作手順

●レジュームが有効な場合

- ⓐキーによる電源 OFF 後の起動では、電源 OFF 直前の状態から復帰します。
(読取りキーを押しながらⓐキーを押して電源 ON にすると、レジュームはキャンセルされます。)

●レジュームが失敗した場合



ⓐキーを押さずにバッテリーを取出して電源 OFF した後の起動では、レジュームに失敗します。

●レジュームが無効な場合



電源 OFF 後、次回(PW)キーで電源 ON すると常に処理の最初から実行します。

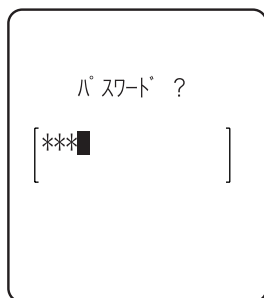
「自動実行」にアプリケーションが設定されている場合は指定のアプリケーションが起動します。

注意

端末の動作中にバッテリーカートリッジを外すと、レジューム機能は無効となります。レジューム機能を有効にするためにはキーを押下して電源の ON/OFF を行なってください。

3-8-4 パスワード

システムメニューを不用意に起動させないためのパスワードを設定します。パスワードを設定すれば管理者以外の第三者が設定内容を確認したり変更したりできないようになります。



パスワードが設定されると、システムメニュー起動時にパスワードチェックを実施します。パスワードが入力されない限り、システムメニューは起動しません。

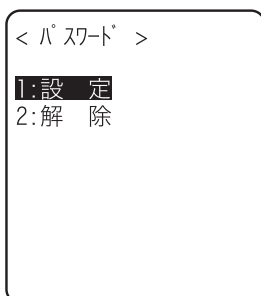
ただしレジューム機能を有効にした状態でシステムメニューを表示中に(PW)キーを押して電源 OFF すると、再起動時はパスワードチェック無しにシステムメニューから起動します。

注意

暗証番号は忘れないようにメモを取って保管してください。万が一忘れてしまった場合は、弊社営業までお問合せください。

操作手順

①システム設定カテゴリから「4:パスワード」を選択します。



設定する項目を選択します。

- ・ 設定
- ・ 解除

■パスワードの設定

操作手順

- ① 新しいパスワードを入力します。

< パスワードの設定 >

新しいパスワード

新しいパスワード (確認)

パスワードは 4 文字～30 文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

新しいパスワードを入力したら、**Enter**キーを押します。

- ② もう一度パスワードを入力します。

< パスワードの設定 >

新しいパスワード

abcd

新しいパスワード (確認)

入力後、**Enter**キーを押して確定します。

■パスワードの解除

操作手順

- ① 確認用ダイアログで[はい]を選択します。

< パスワードの解除 >

パスワードを解除しますか?

はい いいえ

設定されていたパスワードが消去されます。

[いいえ]を選択、または**C**キーを押すと解除を中止します。

3-8-5 オートウェイクアップ

オートウェイクアップとは予め設定したスケジュールに従い、端末を自動的に起動させる機能です。

注意

オートウェイクアップ機能は、キーによって端末を終了した場合にのみ有効です。電池交換をした直後や、ローバッテリーによる強制終了後はオートウェイクアップの設定で指定された日時になっても、端末は起動しません。

■スケジュールの確認

操作手順

①システム設定カテゴリから「5:オートウェイクアップ」を選択します。

< 現在のスケジュール >

毎週月曜日の
07時30分に
起動します。

1:設定
2:解除

現在設定されているスケジュールが表示されます。

設定する項目を選択します。

- ・ 設定
- ・ 解除

■スケジュールの設定

操作手順

①スケジュールの発生間隔を選択します。

< スケジュールの設定 >

間 隔 **毎日**
毎週
毎月

毎日(時刻指定)、毎週(曜日と時刻指定)、毎月(日にちと時刻指定)から選択できます。日にちは『01』～『31』で、時間は 24 時間形式で設定します。設定が完了するとスケジュールの確認へ戻ります。

ⓐキーを押すと設定を中止し、スケジュールの確認へ戻ります。



< スケジュールの設定 >

間 隔 [毎月]
日 付 [01]
時 間 [01:00]

24 時間形式で時分(00:00 ～ 23:59)を入力します。

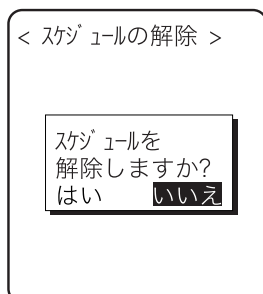
以上で設定は完了です。

スケジュールの確認へ戻ります。

■スケジュールの解除

操作手順

- ① 確認用ダイアログで「はい」を選択します。



設定されていたスケジュールが消去されます。

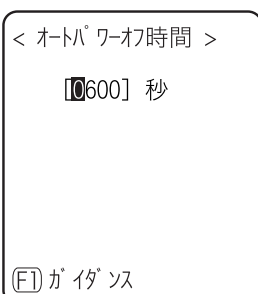
「いいえ」を選択、またはⓐキーを押すと解除を中止します。

3-8-6 オートパワーオフ

オートパワーオフとは一定時間何の操作も行われなかった場合に、自動的に電源を OFF にする機能です。

操作手順

- ① システム設定カテゴリから「6:オートパワーオフ」を選択します。



オートパワーオフ時間を入力します。

設定可能な時間は 0060 秒～3600 秒です。なお、0000 秒に設定するとオートパワーオフは無効になります。

ⓑキーを押すと、設定値に関するガイダンスを表示します。

3-9 受信カテゴリ

Bluetooth 経由でファイルを受信します。

受信の際は、予め次のことを確認してください。受信したファイルは全てFドライブに作成されます。

●送信側がホストコンピュータの場合

- ・ ホストコンピュータの電源が入っている
- ・ ホストコンピュータで「BluePorter」(WLF-001:別売)や、「B-Spider (WLF-002)を使用したアプリケーション」が起動している
- ・ XIT-120-M のデフォルトデバイスが送信側のホストコンピュータに設定されている(ファイルリストから選択する場合のみ)

●送信側が XIT-120-M の場合

- ・ 待受けのみ可能
- ・ 送信側の XIT-120-M のデフォルトデバイスが、受信側の XIT-120-M に設定されている

操作手順

① システムメニューから「2:受信」を選択します。

< 受信の方法 >

- 1:ファイルリストから選択
- 2:待受け(PC)
- 3:待受け(XIT)

受信方法を選択します。

「1:ファイルリストから選択」を選択すると、送信側からファイルリストを取得します。受信側はそのリストから受信したいファイルを選択することができます。

「2:待受け(PC)」「3:待受け(XIT)」を選択すると直ちに受信待機状態となります。送信側がホストコンピュータなら「2:待受け(PC)」を、XIT なら「3:待受け(XIT)」を選択します。受信するファイルは送信側に依存します。

- ・ 1：ファイルリストから選択→②
- ・ 2：待ち受け (PC) 、 3：待受け (XIT) →③

② ファイルリストを取得し、受信するファイルを選択します。

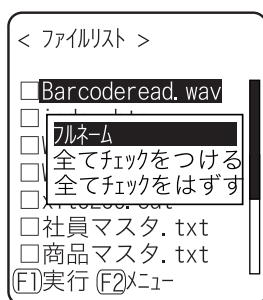
< ファイルリスト >

- ☒ Barcoderead. wav
- ☐ 受信を開始しますか?
- ☒ はい ☐ いいえ
- ☐ 社員マスタ. txt
- ☐ 商品マスタ. txt
- [F1]実行 [F2]メニュー

受信するファイルのチェックボックスをチェックします。

[F2]キーを押すと受信確認ダイアログが表示されます。この際、チェックされているファイルが1つも無い場合は、**選択中**のファイルを受信します。[はい] [いいえ]を選択してください。

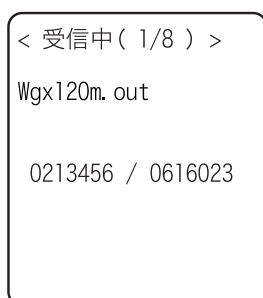
なお、[F1]キーを押すと[いいえ]を選択したことになります。



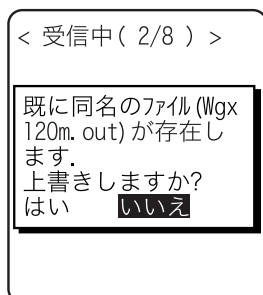
F2キーを押すとファイルリストを操作するためのサブメニューが表示されます。

- ・『フルネーム』
選択中のファイル名を表示します。
- ・『全てチェックをつける』
ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。
- ・『全てチェックを外す』
ファイルリストのチェックボックスから全てチェックを外します。

③ 受信を開始します。



受信状況が画面に表示されます。

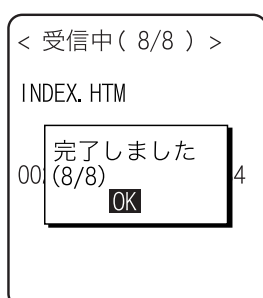


受信するファイルと同じファイル名が存在する場合は、上書き確認ダイアログが表示されます。

[はい] [いいえ]を選択してください。

なお、Cキーを押すと[いいえ]を選択したことになります。

⑤ 受信が完了しました。



複数のファイルをチェックした場合は、メッセージボックス内に『(受信成功数/チェック数)』が表示されます。

Enterキー、またはCキーを押します。

3-10 ファイルカテゴリ

目的のファイルを探し、送信や削除などの各種操作を行ないます。

各ドライブのファイルの種類ごとに分類されたファイルリストから、操作するファイルを選択します。ファイルの種類は拡張子(ファイル名のピリオドに続く3文字)により決定し、次のように分類されます。

拡張子	ファイルの種類
OUT	アプリケーション
WAV、MP3、SFL	音声
BMP	ビットマップ
それ以外	データ

可能な操作は次の通りです。特定のファイルの種類に関連付けられた操作と、全てのファイルで有効な操作があります。

操作	説明
実行 ^{※1}	アプリケーションを起動します。ファイルの種類が『アプリケーション』のファイルのみ操作可能です。
再生 ^{※1※3}	音声ファイルを再生します。ファイルの種類が『音声』のファイルのみ操作可能です。
閲覧 ^{※2}	ビットマップイメージを表示します。ファイルの種類が『ビットマップ』のファイルのみ操作可能です。
情報	ファイルに関する各種情報を表示します。
送信	ファイルを送信します。
削除	ファイルを削除します。
テスト	ファイルが破損していないか調べます。
全てチェックをつける	ファイルリストのチェックボックスを全てチェックします。
全てチェックをはずす	ファイルリストのチェックボックスから全てチェックを外します。

※1 Sドライブのファイルは操作できません。

※2 サポートするビットマップファイルは次の通りです。

フォーマット	Windows Bitmap モノクロイメージ
サイズ	132×128ピクセル固定

※3 サポートする音声ファイルは次の通りです。

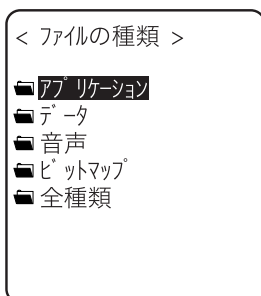
拡張子	WAV
フォーマット	Windows 標準 WAVE フォーマット
オーディオサンプリングレート	8000/11025/16000/22050/44100/48000 [Hz]
チャンネル	モノラル
オーディオサンプルサイズ	16bit
オーディオ形式	PCM

拡張子	MP3
フォーマット	MPEG-1 Audio Layer-3
オーディオサンプリングレート	44100/48000 [Hz]
ビットレート	32/40/48/56/64/80/96/112/128/160/192/224/256/320 (kbps)
チャンネル	モノラル/ステレオ

拡張子	SFL
フォーマット	音声ファイルリスト(テキスト形式)
最大列挙数	32
解説	SFL ファイルを使用すると、複数の音声ファイルを連続で再生することが出来ます。 ファイルリストにはファイル名を改行区切りで列挙していきます。最大で 32 個までファイル名を列挙する事が出来ます。 列挙した音声ファイルは事前に端末に格納されていなければなりません。 ファイルリスト内に書かれているファイル名はすべて一回のみ再生します。 再生途中でエラーが発生した場合は、以降の音声ファイルの再生を行いません。 SFL ファイル内に他の SFL ファイルを列挙することはできません。
記述例	ALARM_MELODY.WAV (改行) LOCATION_3F_2.WAV (改行) SHIP_ERROR.WAV

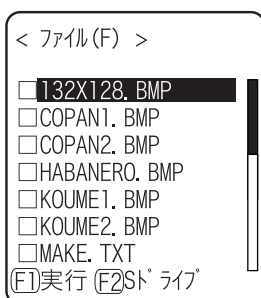
操作手順

①システムメニューから「5:ファイル」を選択します。



操作対象のファイルの種類を選択します。「全種類」を選択すると、ファイルの種類に関係なく、ドライブに保存されている全ファイルが対象となります。

②ドライブを選択します。

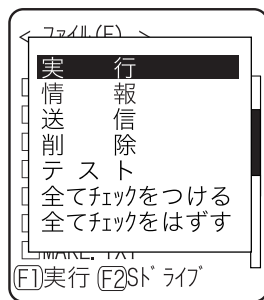


Fドライブがカレントドライブになります。

Fドライブにファイルが格納されていない場合は Sドライブがカレントドライブになります。

[F2]キーを押すたびにカレントドライブが切り替わります。

③ ファイルを操作します。



ファイル単体のチェックボックス操作(チェックをつける/外す)は $\square$ キーで行ないます。

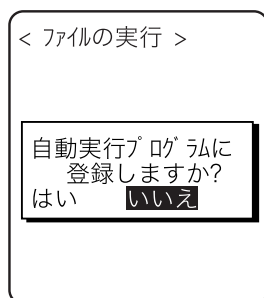
その他の操作は $\square$ キーを押してサブメニューから操作を選択します。

- ・ 実行
- ・ 再生
- ・ 閲覧
- ・ 情報
- ・ 送信
- ・ 削除
- ・ テスト
- ・ 全てチェックをつける
- ・ 全てチェックを外す

■ 実行

操作手順

① サブメニューから「実行」を選択します。



チェックボックスの状態に関わらず、**選択中**のアプリケーションが実行されます。

実行するアプリケーションが自動実行に登録されていない場合は、登録の確認ダイアログが表示されます。

なお、 $\square$ キーを押すと[いいえ]を選択したことになります。

選択後プログラムを実行します。

アプリケーションを終了するには、アプリケーション毎に定められた操作を行ってください。終了後にシステムメニューが再度表示されるか、端末の電源を OFF にするかはアプリケーションに依存します。

動作中に電池が切れた時はアラーム表示後に端末の電源を OFF にします。

アプリケーションを強制的に終了したい場合は、アプリケーションの動作中に $\square$ キーを 10 秒間押し続けてください。

■再生

操作手順

- ① サブメニューから「再生」を選択します。



チェックボックスの状態に関わらず、**選択中**の音声ファイルが再生されます。

ⓐ キーを押すと再生を中止します。

■閲覧

操作手順

- ① サブメニューから「閲覧」を選択します。



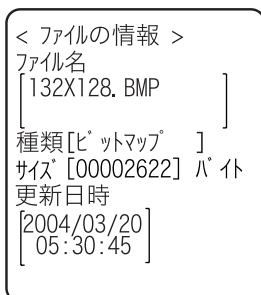
チェックボックスの状態に関わらず、**選択中**のビットマップファイルの内容が表示されます。

何かキーを押すと1つ前の操作に戻ります。

■情報

操作手順

- ① サブメニューから「情報」を選択します。



チェックボックスの状態に関わらず、**選択中**のファイルに関する情報が表示されます。

次の情報が表示されます。

- ・ ファイル名
- ・ ファイル種類
- ・ ファイルサイズ
- ・ 更新日時
- ・ ライブラリバージョン(アプリケーションのみ)

何かキーを押すと1つ前の操作に戻ります。

■送信

送信の際は、予め次のことを確認してください。

●受信側がホストコンピュータの場合

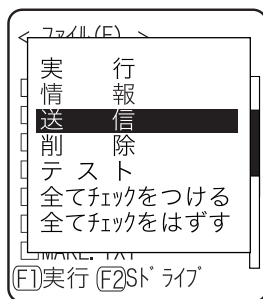
- ・ホストコンピュータの電源が入っている
- ・ホストコンピュータで「BluePorter (WLF-001: 別売)」や、「B-Spider (WLF-002)」を使用したアプリケーションが起動している
- ・XIT-120-Mのデフォルトデバイスが受信側のホストコンピュータに設定されている

●受信側が XIT-120-M の場合

- ・XIT-120-Mのデフォルトデバイスが受信側の XIT-120-M に設定されている

操作手順

① サブメニューから「送信」を選択します。



チェックボックスがチェックされているファイルを送信します。

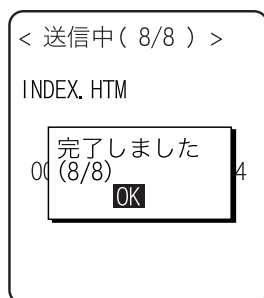
ただし、チェックされているファイルが1つも無い場合は、**選択中**のファイルを送信します。

② 送信を開始します。



送信状況が画面に表示されます。

③送信が完了しました。



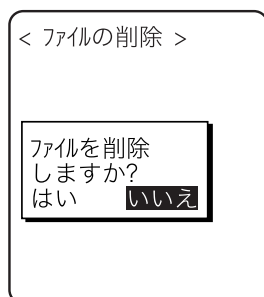
複数のファイルをチェックした場合は、メッセージボックス内に「(送信成功数/チェック数)」が表示されます。

Enterキー、または**C**キーを押します。

■削除

操作手順

①サブメニューから「削除」を選択します。



チェックボックスがチェックされているファイルを削除します。

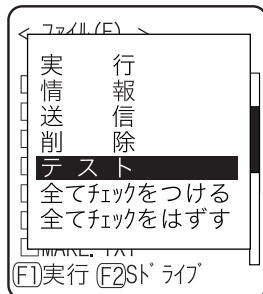
ただし、チェックされているファイルが1つも無い場合は、**選択中**のファイルを削除します。

確認ダイアログが表示されます。[はい] [いいえ]を選択してください。

なお、**C**キーを押すと[いいえ]を選択したことになります。

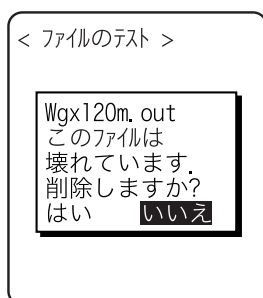
■テスト

操作手順



チェックボックスがチェックされているファイルをテストします。

ただし、チェックされているファイルが1つも無い場合は、**選択中**のファイルをテストします。



テストしたファイルが破損している場合、ファイル削除の確認ダイアログが表示されます。[はい] [いいえ]を選択してください。

なお、**C**キーを押すと[いいえ]を選択したことになります。

[はい]を選択した場合は直ちにファイルを削除します。

[いいえ]を選択した場合は何もありません。

選択後、次のファイルのテストを再開します。

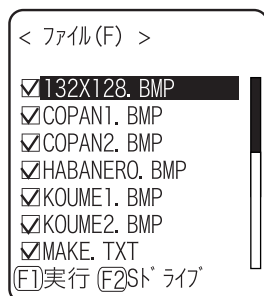
注意

破損したファイルをそのまま使用すると、アプリケーションが暴走するなど予期せぬ事態が発生する可能性があります。破損したファイルは削除することを強くお奨めします。

■全てチェックをつける

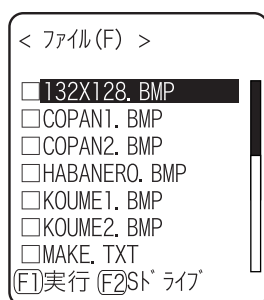
操作手順

① サブメニューから「全てチェックをつける」を選択します。



全てのチェックボックスをチェックします。

■全てチェックを外す



全てのチェックボックスからチェックを外します。

3-11 端末 ID カテゴリ

識別用の ID 番号を設定します。端末ごとに固有の番号を設定してください。

操作手順

①システムメニューから「4: 端末 ID」を選択します。



< 端末 ID >

端末 ID [000]

端末 ID を入力します。

設定可能な ID は 000～999 です。

3-12 デバイスカテゴリ

バーコードやキーなどのハードウェアデバイスを設定します。デバイスカテゴリ内は更にデバイスごとに分類されています。

操作手順

①システムメニューから「5:デバイス」を選択します。

< デバ イ ス >

1:バーコード
2:キー
3:Bluetooth
4:画面
5:音/バ イ プ

設定する項目を選択します。

- ・ バーコード
- ・ キー
- ・ Bluetooth
- ・ 画面
- ・ 音/バイプ

3-12-1 バーコード

操作手順

①デバイスカテゴリから「1:バーコード」を選択します。

< バ ー コー ド >

1:トリガ モード
2:フォーカス
3:バ ー ジ ョ ン

設定する項目を選択します。

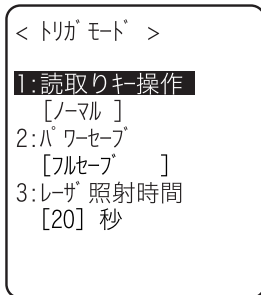
- ・ トリガモード
- ・ フォーカス
- ・ バージョン

■トリガモード

システムメニューまたは XIT-120-M 用ブラウザ等でのイメージスキャナの動作条件を設定します。
この設定は、バーコードの読取りに「トリガモード」を使用しているアプリケーションでのみ有効です。
WebGlider-X Lite ブラウザはトリガモードを使用したアプリケーションの中の一つです。

操作手順

① 設定する項目を選択します。



設定する項目を選択します。

- ・ 読取りキー操作
- ・ パワーセーブ
- ・ レーザ照射時間

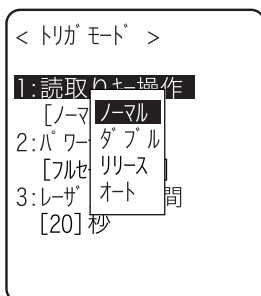
●読取りキー操作

読取りキーの操作とエイミングパターン、イルミネーション LED の照射パターンを設定します。バーコードはイルミネーション LED が照射(点灯)されている状態で読取ることができます。

ただし、非常に明るい場合や、同一の対象の読取りを続けた場合はイルミネーション LED が消灯する事があります。

操作手順

① サブメニューから項目を選択します。



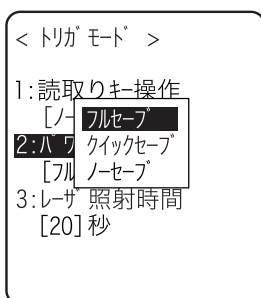
- ・ ノーマル
読取りキーを押すとエイミングパターンとイルミネーション LED を照射して、読取りを行います。
- ・ ダブル
読取りキーを押すとエイミングパターンを照射します。もう一度押すとイルミネーション LED を照射して、読取りを行います。
- ・ リリース
読取りキーを押すとエイミングパターンを照射し、読取りキーを離すとイルミネーション LED を照射して、読取りを行います。
- ・ オート
読取りキーの操作に関係なく自動的にエイミングパターンとイルミネーション LED を照射して、読取りを行います。

●パワーセーブ

読取り時の消費電力を抑えるための設定をします。

操作手順

① サブメニューから項目を選択します。



・フルセーブ

バーコードを読取るとエイミングパターンとイルミネーションLEDを自動的に消して、スキャナが即時に省電力モードに移行します。

・クイックセーブ

バーコードを読取るとエイミングパターンとイルミネーションLEDを自動的に消して、スキャナが 1 秒後に省電力モードに移行します。連続でバーコードの読取りを行う時に使用してください。

・ノーセーブ

バーコードを読取るとエイミングパターンとイルミネーションLEDを自動的に消しますが、OS 内部のデコード結果を破棄すると再び照射されます。

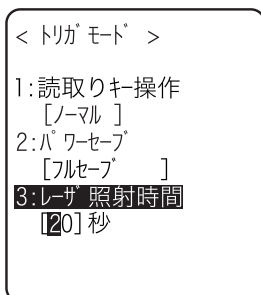
●レーザ照射時間

エイミングパターンとイルミネーションLEDを消すまでの時間を設定します。

操作手順



① 時間を入力します。



設定可能な時間は 00～60 秒です。

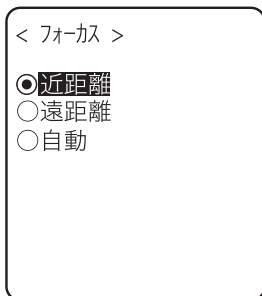
なお、00 秒に設定するとエイミングパターンとイルミネーションLEDは消えずに照射したままとなります。

■フォーカス

スキャナの焦点距離を設定します。

操作手順

①フォーカスを設定します。



「近距離」「遠距離」「自動」のうちから一つをラジオボタンで選択します。

- ・ 近距離
分解能が高いですが、読取り可能な範囲が狭い為、小さいバーコードの読取り時に選択してください。
- ・ 遠距離
分解能は低くなりますが、読取り可能な範囲が広い為、大きなバーコード、幅の広いバーコードの読取り時に選択してください。
- ・ 自動
近距離と遠距離に周期的に変更されます。読取り時にスキャナ駆動音が生じますが、故障ではありません。

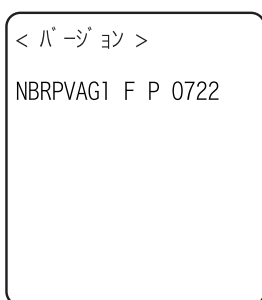
注意

フォーカスの設定を変更することで読取り深度が変わります。「1-5 読取り仕様」(P.1-10)を参照の上、用途に合わせて設定を行ってください。

■バージョン

内蔵されている2次元デバイスのファームウェアバージョンを確認します。

操作手順

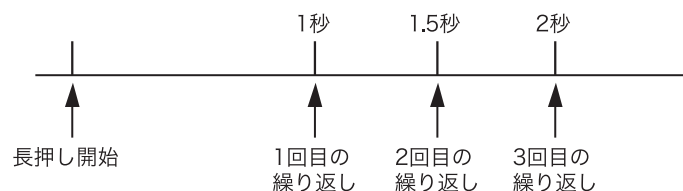


キーを押すと上位メニューに戻ります。

3-12-2 キー

方向(F5)～(F8)キーを長押しすると、押されている間その方向キーを繰り返し入力することができます。ここでは長押し開始から最初に繰り返し入力が発生するまでの時間(リピート開始時間)と、以降繰り返し入力が発生するまでの時間(リピート間隔)を設定します。

(例)リピート開始時間を1秒、リピート間隔を500ミリ秒に設定した場合



操作手順

① デバイスカテゴリから「2:キー」を選択します。



< キー >

1:リピート開始時間

[0500] ミリ秒

2:リピート間隔

[0100] ミリ秒

[F1] ガイダンス

現在の設定内容が表示されます。

設定可能な時間は 0100～1000 ミリ秒です。

なお、0000 ミリ秒に設定すると繰り返し入力は禁止されます。

[F1]キーを押すと、設定値に関するガイダンスを表示します。

3-12-3 Bluetooth

操作手順

① デバイスカテゴリから「3:Bluetooth」を選択します。

< Bluetooth >

1:ローカルデバイス

2:リモートデバイス

設定する項目を選択します。

- ・ ローカルデバイス
- ・ リモートデバイス

■ローカルデバイス

ローカルデバイスの設定をします。

操作手順

① 設定する項目を選択します。

< プロパティ >

1: デバイス名
XIT-120

2: BDアドレス
[00:03:7A:0B:0A:AB]

3: セキュリティ

4: バージョン

[F] 保存

- ・ デバイス名
- ・ セキュリティ
- ・ バージョン

「BD アドレス」は固定のため、設定内容を変更できません。

注意

ローカルデバイスの設定中のみ、リモートデバイスからの検索を受付けます。それ以外では検索を受付けません。

< プロパティ >

1: デバイス名
XIT-120

保存しますか?
はい いいえ

2: BDアドレス
[00:03:7A:0B:0A:AB]

3: セキュリティ

4: バージョン

[F] 保存

各項目で設定した内容はそのままでは保存されません。設定内容を保存するには、本画面で[F]キーまたは[C]キーを押し、保存確認ダイアログで[はい]を選択します。

なお、[C]キーを押すと[いいえ]を選択したことになります

●デバイス名

操作手順

① Bluetooth デバイスの名前を入力します。

< プロパティ >

1: デバイス名
XIT-120

2: BDアドレス
[00:03:7A:0B:0A:AB]

3: セキュリティ

4: バージョン

[F] 保存

デバイス名は最大 30 文字までの英数記号で、大文字/小文字が区別されます。

●セキュリティ

接続時の認証に関する設定をします。

操作手順

- ① 認証を有効にするチェックボックスを操作します。

チェックボックスをチェックすると、ローカルデバイスがリモートデバイスから接続要求を受けた場合に認証を行います。

認証できたリモートデバイスだけが接続を許可されます。

- ② PIN コードを設定します。

PIN(Personal Identification Number)コードは認証の際に使用するパスワードです。

大小英文字、数字、記号で最大 16 桁まで入力可能です。

セキュリティ対策として、入力後の PIN コードは伏字(*)に変換されて表示されます。

●バージョン

操作手順

- ① 内蔵されている Bluetooth デバイスのファームウェアバージョンを確認します。

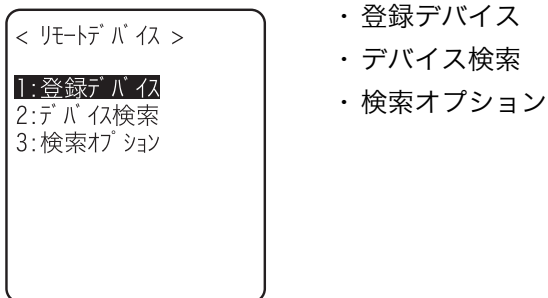
- ② キーを押すと1つ前の操作に戻ります。

■リモートデバイス

リモートデバイスの設定をします。

操作手順

① 設定する項目を選択します。

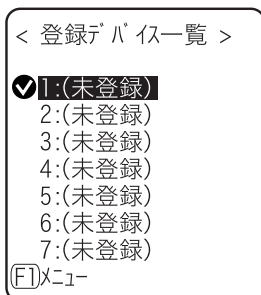


●登録デバイス

接続先のリモートデバイス情報を最大7件まで登録できます。予め登録しておけば、接続のたびにデバイス情報を設定する必要はありません。

操作手順

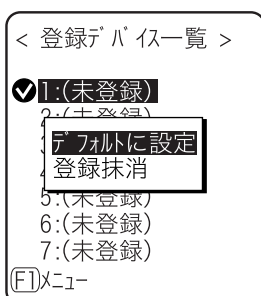
① 登録する項目番号を選択します。



項目番号を選択し、デバイス情報を順次設定します。

デバイス情報が登録済みの場合は項目番号の右側にデバイス名が表示されます。未登録の場合は項目番号の右側に[(未登録)]と表示されます(デバイス名が1文字以上で、かつ BD アドレスが「00:00:00:00:00:00」以外の場合に登録済みとして認識されます)。

項目番号の左側に✓が表示されているデバイスはデフォルトデバイスです。システムメニューではBluetoothと接続する場合、デフォルトデバイスに接続します。



F1 キーを押すとサブメニューが表示されます。

- ・『デフォルトに設定』
選択中の登録デバイスをデフォルトデバイスに設定します。
- ・『登録抹消』
登録したデバイス情報を消去します。

② 設定する項目を選択します。

< プロパティ >

1: デバイス名

2: BDアドレス
[00:03:7A:0B:0A:AB]

3: セキュリティ

(F1)保存 (F2)検索

- ・ デバイス名
- ・ BD アドレス
- ・ セキュリティ

デバイス名、セキュリティの操作手順はローカルデバイスと同じです。

(F2)キーを押すと周辺のリモートデバイスを検索します。検出したリモートデバイスを登録デバイスに設定することも可能です。

● BD アドレス

操作手順

① BD アドレスを入力します。



< プロパティ >

1: デバイス名

2: BDアドレス
[00:03:7A:0B:0A:AB]

3: セキュリティ

(F1)保存 (F2)検索

BD アドレスはデバイス固有のハードウェアアドレスです。

16 進文字(0~9、A~F)で 12 桁の固定長です。

● デバイス検索

周辺のリモートデバイスを検索します。検出したリモートデバイスを登録デバイスとして設定することも可能です。

注意

デバイス検索の対象に端末を含めたい場合は、対象となる端末を「ローカルデバイスの設定中」にしておく必要があります。

操作手順

① 検索を開始します。

< デバイス検索 >

検索中 ...■

(C)キーを押すと検索を中止します。

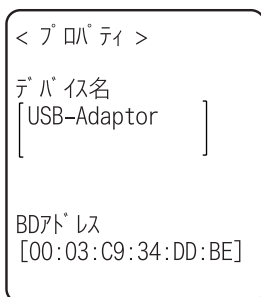
② 検索結果の一覧を表示します。



検出したリモートデバイスのデバイス名の一覧が表示されます。

注意

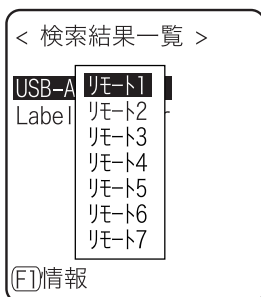
検出できるデバイス名は英数記号です。ホストコンピュータのデバイス名にかな漢字を使用しないでください。



F1)キーを押すと**選択中**のリモートデバイスのデバイス名、BD アドレスを表示します。

⌂キーを押すと1つ前の操作に戻ります。

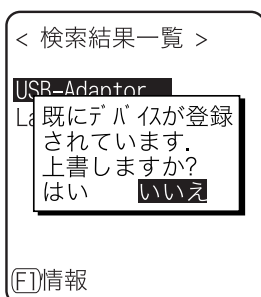
③ 検出したリモートデバイスを選択します。



F2)キーを押すと**選択中**のリモートデバイスのデバイス名、BD アドレスを表示します。

⌂キーを押すと1つ前の操作に戻ります。

④ 登録デバイスの登録番号を選択します。



既に登録済みの登録番号を選択した場合は、上書き確認ダイアログが表示されます。[はい] [いいえ]を選択してください。なお、⌂キーを押すと[いいえ]を選択したことになります。

●検索オプション

デバイス検索で検出するリモートデバイスの台数の上限を設定します。

操作手順

① 検索台数を入力します。

< 検索オプション >
検索台数 **6** (1 - 9)

設定可能な台数は 1～9 台です。

検索台数が多いほど、検索時間は長くなります。

3-12-4 画面



操作手順

① デバイスカテゴリから「4:画面」を選択します。

< 画面 >
1:コントラスト
2:バックライト輝度

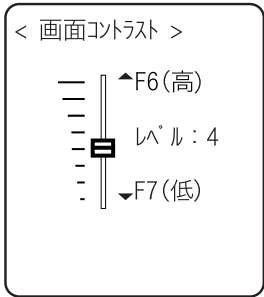
設定する項目を選択します。

- ・ コントラスト
- ・ バックライト輝度

■コントラスト

操作手順

① 画面のコントラストを調節します。



1～8の8段階に調節できます。

Ⓔ6キーで上に、Ⓔ7キーで下にスライダーが移動します。

スライダーの上下に合わせてコントラストがリアルタイムで変化するので、レベル値の状態を即確認できます。

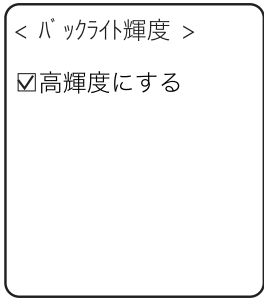
レベル値とコントラストの関係は次の通りです。

レベル値	コントラスト
8	高(濃)い
↓	↑

■バックライト輝度

操作手順

① 高輝度にするチェックボックスを操作します。



チェックをするとバックライト点灯時の輝度が高輝度になります。

ただし、その場合チェックを外している状態(標準輝度)と比べて消費する電力が大きくなります。

設定を開始すると自動的にバックライトが点灯し、チェックの状態に合わせて輝度がリアルタイムで変化します。

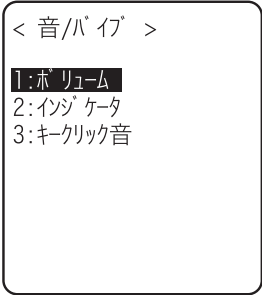
ただし、電池残量が規定値以下の場合は、バックライトは点灯しません。

3-12-5 音/バイブ

音やLED、バイブレータなど作業者の注意を喚起させるデバイスを設定します。

操作手順

① デバイスカテゴリから「5:音/バイブ」を選択します。



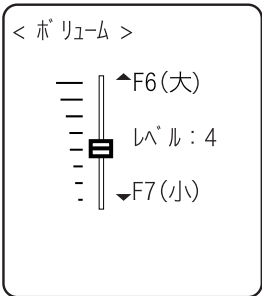
設定する項目を選択します。

- ・ ボリューム
- ・ インジケータ
- ・ キークリック音

■ボリューム

操作手順

① スピーカの音量を調節します。



1～8 の 8 段階に調節できます。

F6キーで上に、**F7**キーで下にスライダーが移動します。

スライダーの上下に合わせて音量がリアルタイムで変化するので、レベル値の状態を即確認できます。

レベル値と音量の関係は次の通りです。

レベル値	音量
8	大きい ↑ ↓ 小さい
↓	
1	

1 に設定すると、消音になります。

■インジケータ

インジケータとは作業者の注意を喚起させる4つのデバイス(ブザー/音声/バイブレータ/LED)を組合せた総称です。

インジケータを使用すれば、作業者に対して現在の状況をより感覚的に知らせることができます。どのインジケータがどのような場面で使用されるかは、アプリケーションによって設定されます。なお、システムメニューは各シーンのパターン3のインジケータが適用されます。

例えば、

- ・ 確定時は高音を短めに1回鳴らし、緑色のLEDを点灯させる
- ・ エラー時はバイブレータを振動させながら低音を3回鳴らし、赤色のLEDを点滅させる

など、お客様の使用環境に合わせた様々な設定が可能です。

キーを押す(クリック)、確定するといった作業時の代表的なシーン5種類と、お客様の任意のシーン(ユーザ)を1つ加えた合計6シーンが、それぞれ3パターンずつ用意されています。

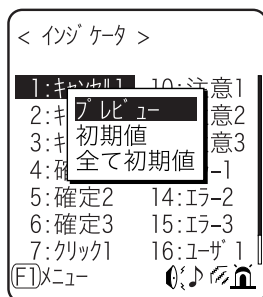
操作手順

① 設定するインジケータを選択します。



画面下部右下にインジケータの設定状況を示すアイコンが表示されます。

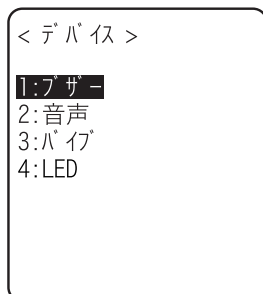
- : ブザーが設定されています。
- : 音声設定されています。
- : バイブレーションが設定されています。
- : LED が設定されています。



[F1]キーを押すとサブメニューを表示します。

- ・『プレビュー』
現在のインジケータを実際に体感できます
- ・『初期値』
選択されているパターンの設定内容を破棄し、初期値にします
- ・『全て初期値』
全シーンの全パターンの設定内容を破棄し、初期値にします。

② 設定するデバイスを選択します。



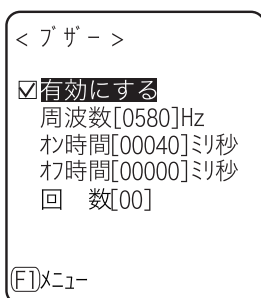
デバイス選択後、デバイスの動作条件を順次設定します。

●デバイスの動作条件

動作条件には全デバイスで共通なもの、デバイス独自のものがあります。

操作手順

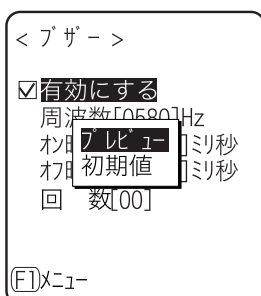
①有効にするチェックボックスを操作します(全デバイス共通)。



デバイスの動作を ON/OFF するスイッチです。

チェックをするとデバイスが動作し、外すと他の設定に関わらずデバイスは動作しません。

本設定内容がアイコンとして表示されます。

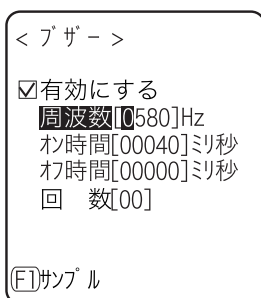


[F1]キーを押すとサブメニューが表示されます。

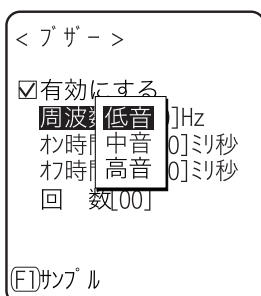
- ・『プレビュー』
現在のインジケータを実際に体感できます。
- ・『初期値』
設定中のパターンの設定内容を破棄し、初期値にします。

なお、画面下部左下に[F1]メニューが表示されている場合、デバイスの動作条件全体を通じ操作手順は同じです。

②周波数を入力します(ブザーのみ)。



設定範囲は 0000～9999Hz です。



周波数入力中は画面下部左側のファンクションキーガイドンスの内容が変わります。

[F1]キーを押すと、周波数サンプルのサブメニューが表示されます。

サンプルを基準に数値の微調整を行うと、スムーズに設定できます。

③ ファイル名を選択します(音声のみ)。

< ファイルの参照 >

☒ 内蔵音声
 CLICK.WAV
 ENTER.WAV
 ERROR_MSG.MP3
 LIST.SFL

(F1)情報

ファイルリストから音声ファイルを選択します。

(F1)キーを押すと選択中のファイルに関する情報を表示します。

「内蔵音声」を選択すると、端末のシステム領域にあらかじめ持っている音声ファイルのリストを表示します。

注意

拡張子が MP3 または SFL のファイルをインジケータに指定する場合、アプリケーションにリンクされたライブラリが Ver.1.10 以上でなければアプリケーションから再生されません。

④ 色を選択します(LEDのみ)。

< LED >

☐ 有効にする
 色 **赤**
 オン時間 緑 40]ミ秒
 オフ時間 橙 00]ミ秒
 回数 00]

(F1)メニュー

サブメニューから項目を選択します。

⑤ オン時間を入力します(ブザー/バイブレータ/LED)。

< バイブ >

☐ 有効にする
 オン時間 [00040]ミ秒
 オフ時間 [00000]ミ秒
 回数 [00]

(F1)メニュー

デバイスの1回あたりの動作時間です。

設定範囲は 00000～99999 ミリ秒です。

00000 ミリ秒を設定するとデバイスは動作し続けます。

⑥ オフ時間を入力します(ブザー/バイブレータ/LED)。

< バイブ >

☐ 有効にする
 オン時間 [00040]ミ秒
 オフ時間 [00000]ミ秒
 回数 [00]

(F1)メニュー

デバイスの1回あたりの停止時間です。

設定範囲は 00000～99999 ミリ秒です。

00000 ミリ秒を設定するとオン時間(ミリ秒)後に停止します。

⑦回数を入力します(全デバイス共通)。

< バイブ >

☐有効にする

初時間[00040]ミリ秒

再時間[00000]ミリ秒

回数[00]

(F1)メニュー

デバイスの動作と停止を繰り返す回数です。

設定範囲は 00～99 回です。

00 回を設定すると、再度そのデバイスが動作されるまでの間繰り返し続けます。

■キークリック音

端末のキーを押したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

音は単音のビープ音と、数字の読み上げ音声から選択できます。

クリック音はキーを押したときに即座に再生されます。アプリケーションやインジケータで鳴らしている音がある場合、後から鳴った音で前の音が中断されます。タイミングによっては、その中断によって音が濁って聞こえる事があります。

操作手順

①キーを押したときに再生される音のパターンを選択します。

< キークリック音 >

☒なし

☐クリック音

☐クリック音 + 音声

☐音声

- ・ なし (デフォルト)

キークリック音を鳴らしません。

- ・ クリック音

全てのキーに対して、押したときに「ピッ」というビープ音を鳴らします。

- ・ クリック音 + 音声

数字キーを押したときは音声で数字を読み上げます。他のキーを押したときはビープ音を鳴らします。

- ・ 音声

数字キーを押したときのみ音声で数字を読み上げます。他のキーを押したときは音を鳴らしません。

3-13 メンテナンスカテゴリ

XIT-120-Mの基本的な情報を確認したり、パフォーマンスの改善や保守を行います。

操作手順

①システムメニューから「6:メンテナンス」を選択します。

< メンテナンス >
1:電池残量
2:システムバージョン
3:初期化
4:クローン
5:ドライブ
6:長期保管
7:ウィザード
8:BHCP

設定する項目を選択します。

- ・電池残量
- ・システムバージョン
- ・初期化
- ・クローン
- ・ドライブ
- ・長期保管
- ・ウィザード
- ・BHCP

3-13-1 電池残量

バッテリーカートリッジの電池残量を確認します。電池残量はあくまで目安としてご覧ください。

操作手順

①メンテナンスカテゴリから「1:電池残量」を選択します。

< 電池残量 >

L [██████████] H

電池残量が6段階で表示されます。

3-13-2 システムバージョン

インストールされているシステムプログラム(OS)のバージョン情報を表示します。

操作手順

- ①メンテナンスカテゴリから「2:システムバージョン」を選択します。

< システムバージョン >

OS : 1.00

OSのバージョンが表示されます。

3-13-3 初期化

レジストリやドライブの初期化を行ないます。

初期化を実行すると設定した内容が出荷時の状態に戻ったり、ファイルが全て消去されたりします。初期化を実行するときはこの点を充分にご理解の上、細心の注意を払って行なってください。

操作手順

- ①メンテナンスカテゴリから「3:初期化」を選択します。

< 初期化 >

☒ レジストリ

☐ Fドライブ

☐ Sドライブ

[F1]実行 [F2]メニュー

初期化したい項目にチェックをつけます。

1つもチェックされていない場合は実行できません。

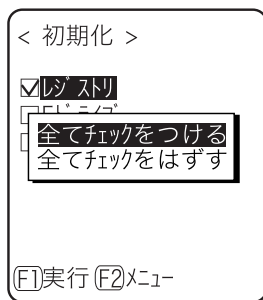
< 初期化 >

初期化をすると、
設定値が出荷時の
状態に戻ったり、
ドライブ上のファイルが
全て消去されたり
します。
実行しますか?
はい ☒ いいえ

[F1]実行 [F2]メニュー

[F1]キーを押すと実行確認ダイアログが表示されます。

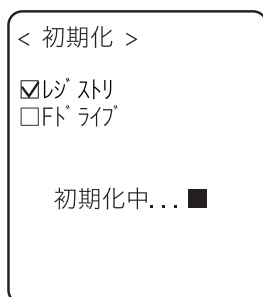
[はい] [いいえ]を選択してください。なお、[C]キーを押すと[いいえ]を選択したことになります。



[F2]キーを押すとサブメニューが表示されます。

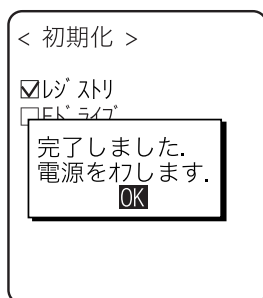
- ・『全てチェックをつける』
チェックボックスを全てチェックします。
- ・『全てチェックをはずす』
チェックボックスから全てチェックを外します。

② 初期化を開始します。



チェックされた項目を順番に初期化します。

③ 初期化が完了しました。



[ENT]キー、または[C]キーを押します。

レジストリを初期化した場合は電源を OFF します。

注意

レジストリを初期化するときに F ドライブにファイルが存在しない場合、チェックの有無を問わず自動的に F ドライブも初期化します。

3-13-4 クローン

他の XIT-120-M のレジストリや F ドライブの内容をコピーし、複製を作成します。

操作手順

① メンテナンスカテゴリから「4:クローン」を選択します。

< クローン >

1: マスター

2: コピー

複製元の XIT-120-M の場合は「1:マスター」を選択します。

複製先の XIT-120-M の場合は「2:コピー」を選択します。

- ・ マスター
- ・ コピー

注意

クローンを行うときは次のことを充分にご理解の上、細心の注意を払って行なってください。

- ・ コピー端末はマスター端末からの受信をする前にコピー端末内の初期化を行ないます。そのためクローンに失敗した場合は設定値が出荷時の状態に戻ったり、ファイルが全て消去されてしまいます。
- ・ コピー端末は最初に初期化を行なうため、クローン可能な状態になるまでにしばらく時間がかかる場合があります。
- ・ マスター端末からレジストリやファイルを転送する時は、コピー端末がクローン可能な状態であることを確認してから実行してください。

注意

Bluetooth 通信の実行前に主局になる機器は、従局になる機器（または端末）をデフォルトデバイスに設定しておく必要があります。端末の設定方法については「 リモートデバイス」（P.3-38）をご覧ください。

■マスター

事前にマスターのデフォルトデバイスに、コピーの XIT-120-M を設定してください。

操作手順

① クローンする項目を選択します。

< クローン(マスター) >

☒ システム
☒ セキュリティ
☒ ユーザー
☒ ユニーク
☒ Fド ライブ

[F1]実行 [F2]メニュー

コピー端末がクローン可能な状態になっていることを確認したら、[F1]キーを押してクローンを開始します。

< クローン(マスター) >

☒ システム
☒ セキュリティ
☒ ユーザー
☒ ユニーク
☒ Fド ライブ

☒ 全てチェックをつける
☒ 全てチェックをはずす

[F1]実行 [F2]メニュー

[F2]キーを押すとサブメニューが表示されます。

- ・『全てチェックをつける』
チェックボックスを全てチェックします。
- ・『全てチェックをはずす』
チェックボックスから全てチェックを外します。

② クローンが完了しました。

< クローン(マスター) >

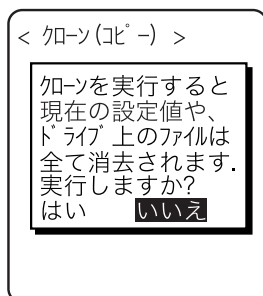
完了しました
OK

[F4]キーまたは[C]キーを押します。

■コピー

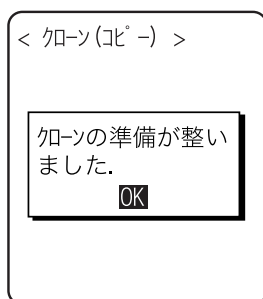
操作手順

- ①自身を初期化します。



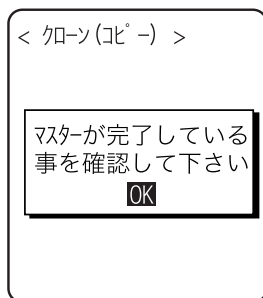
実行確認ダイアログが表示されます。[はい] [いいえ]を選択してください。なお、**ⓐ**キーを押すと[いいえ]を選択したことになります。

- ②クローン可能な状態になったことをお知らせします。



ⓐキーまたは**ⓐ**キーを押すとクローンを開始します。

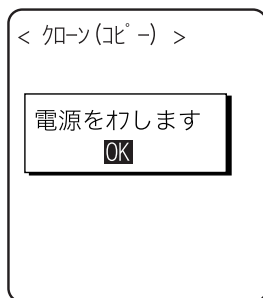
- ③マスターの画面を確認してください。



コピー端末側ではクローンが完了したことを確認できませんので、必ずマスター端末側の画面で転送が完了していることを確認してください。もしマスター端末側の転送が完了していない場合は、再度クローンを行なってください。

ⓐキーまたは**ⓐ**キーを押します。

- ④電源を OFF します。



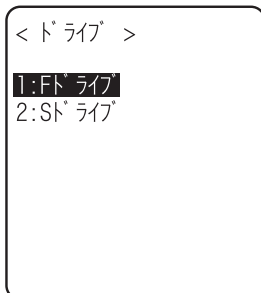
ⓐキーまたは**ⓐ**キーを押します。

3-13-5 ドライブ

ドライブに関する各種情報の確認、および保守を実施します。

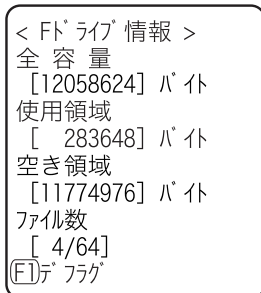
操作手順

① メンテナンスカテゴリから「5:ドライブ」を選択します。



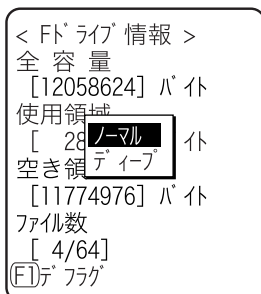
ドライブを選択します。

② ドライブの情報を表示します。



次の情報が表示されます。

- ・全容量
- ・使用領域
- ・空き領域
- ・ファイル数（使用数/最大数）



Fドライブはデフラグにより最適化することができます。

[F]キーを押すとダイアログが表示されます。

- ・『ノーマル』
ファイルの書き込みや削除の過程で発生した不要な領域を物理的に削除します。
- ・『ディープ』
ノーマルの実行に加え、確保した空き領域を連続した領域になるよう再配置します。
ディープはドライブの状態により完了まで数秒～数十秒かかる場合があります。通常はノーマルでの実行をお奨めします。

参照

Fドライブでファイルの書き込みや削除を繰り返すと、次第に空き領域が断片化され、サイズの大きいプログラムファイルが格納できなくなります。デフラグはドライブの空き領域を連続した領域になるよう再配置し、断片化を解消します。

なお、システムプログラムは自動でデフラグを実行し、Fドライブの状態を適正に保つため、通常はデフラグの必要はありません。

注意

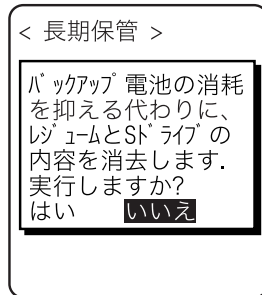
デフラグの途中でバッテリーカートリッジを外すとファイルやシステムプログラムが破壊される恐れがあります。デフラグの途中では絶対にバッテリーカートリッジを外さないでください。

3-13-6 長期保管

XIT-120-M を長期間使用しない場合に、電池の消耗を抑える状態に設定します。

操作手順

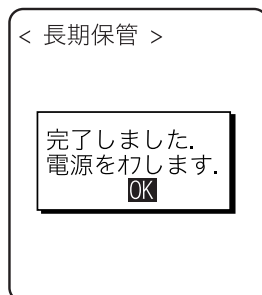
- ① メンテナンスカテゴリから「6:長期保管」を選択します。



実行確認ダイアログが表示されます。[はい] [いいえ]を選択してください。

なお、**C**キーを押すと[いいえ]を選択したことになります。

- ② 長期保管の準備が完了しました。



F4キーまたは、**C**キーを押します。

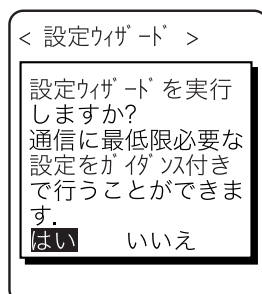
電源を OFF します。

3-13-7 ウィザード

端末の初回起動時に実行したウィザードを再度呼び出す事ができます。端末とサーバ間で通信を行う為に最低限必要な設定ができます。

操作手順

- ① メンテナンスカテゴリから「7:ウィザード」を選択します。



[はい]または[いいえ]を選択します。

[はい]を選択すると、リモート Bluetooth デバイスと端末 ID の設定を行うウィザードが実行されます。[いいえ]を選択すると元の画面に戻ります。

詳細は、「3-6-2 設定ウィザードの実行」(P.3-9)をご覧ください。

3-13-8 BHCP

弊社独自のプロトコルBHCP(Basic Handy Configuration Protocol)にて、端末のシステム設定や、ファイルダウンロードを自動で行なうことができます。



BHCP に関しては、LAN 対応通信コントロール「B-Spider」のヘルプをご覧ください。

操作手順

- ① メンテナンスカテゴリから「8: BHCP」を選択します。

< BHCP >

1: スタートアップの種類
2: 更新禁止項目

(F) 実行

設定する項目を選択します。

- ・ スタートアップの種類
- ・ 更新禁止項目

■ スタートアップの種類

操作手順

- ① 設定する項目を選択します。

< スタートアップの種類 >

☒ 無効にする
☐ アプリケーション起動時
☐ システムメニュー 起動時

設定する項目を選択します。

- ・ 無効にする（出荷時設定）
端末起動時に BHCP が実行されません。
- ・ アプリケーション起動時
アプリケーションが実行される前に BHCP が実行されます。
＜システムメニュー＞[1:システム]→[2:自動実行]にてアプリケーションファイルが選択されている場合、端末起動後アプリケーションが実行される前に BHCP 機能が実行されます。
なお、ファイルカテゴリからアプリケーションを起動した場合は BHCP は実行されません。
- ・ システムメニュー起動時
システムメニューを起動する前に BHCP が実行されます。
＜システムメニュー＞[1:システム]→[1:自動実行]にてシステムメニューが選択されている場合、端末起動後システムメニューが起動される前に BHCP 機能が実行されます。

■更新禁止項目

BHCP 機能を実行する前に、次の端末固有の情報を変更しないように設定します。

- ・ 端末 ID

■実行

[F]キーを押すと、「■スタートアップの種類」(P.3-56)に関わらず、即座に BHCP が実行されます。

BHCP により設定可能な項目は以下のとおりです。

- システムカテゴリ
 - ・ 自動実行 (P.3-13)
 - ・ 時計 (P.3-14)
 - ・ レジューム (P.3-15)
 - ・ オートウェイクアップ (P.3-18)
 - ・ オートパワーオフ (P.3-19)
- 端末 ID カテゴリ
 - ・ 端末 ID (P.3-30)
- メンテナンスカテゴリの<BHCP>
 - ・ スタートアップの種類 (P.3-56)
 - ・ 更新禁止項目 (P.3-57)

注意

BHCP 機能を使用するには、Bluetooth 通信ユニット (IU-002) や LAN 対応通信コントロール「B-Spider」 (WLF-002) が別途必要です。
--

3-14 テストカテゴリ

ハードウェアデバイスをテストします。

操作手順

① システムメニューから「7:テスト」選択します。

< テスト >

- 1:Bluetooth
- 2:バーコード
- 3:画面
- 4:キー

設定する項目を選択します。

- ・ Bluetooth
- ・ バーコード
- ・ 画面
- ・ キー

② 接続先の指定方法を選択します。

3-14-1 Bluetooth

他の端末と Bluetooth を使って 1 対 1 の通信を行ないます。

操作手順

① テストカテゴリから「1:Bluetooth」を選択します。

< Bluetooth >

- 1:主局
- 2:従局

通信を行う Bluetooth 機器との接続方法を選択します。

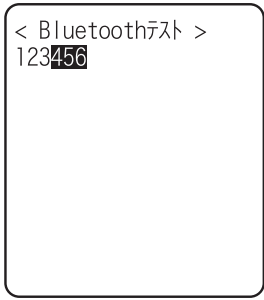
主局は接続における主導権を持ち、従局は主局の指示に従います。
主局と従局間でのみ接続できます。

なお、主局、従局はあくまでも接続段階における一時的な関係です。
接続後は主局、従局の関係は解消されます。

注意

Bluetooth 通信の実行前に主局になる機器は、従局になる機器（または端末）をデフォルトデバイスに設定しておく必要があります。端末の設定方法については「 リモートデバイス」（P.3-38）をご覧ください。

②通信テストを開始します。



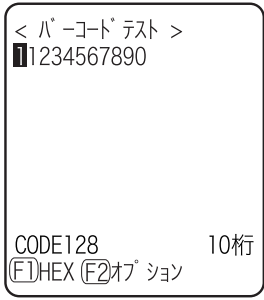
キーを押すと該当するキーデータを送信すると同時に、画面にも表示（ローカルエコー）します。
データを受信すると、反転表示で画面に表示します。

3-14-2 バーコード

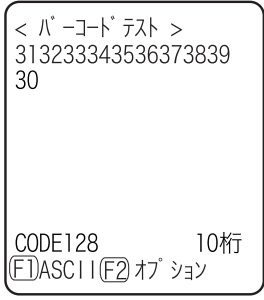
バーコードの読み取りテストをします。
なお、ここでのバーコード入力はトリガモードの影響を受けません。

操作手順

①テストカテゴリ「2:バーコード」を選択します。



読み取ったバーコード、バーコードの種類、桁数を表示します。
バーコードは画面2行目から8行目のデータ表示領域に表示します。
表示可能な桁数は後述の文字コードにより異なります（ASCII: 140桁、HEX: 70桁）。バーコードの桁数がデータ表示領域に収まらない場合は、データ表示領域単位でスクロールします。[F6]キーを押すと上方向に、[F7]キーを押すと下方向にデータ表示領域がスクロールします。



[F1]キーを押すと、文字コードを変換して表示します。

- ・『ASCII』（デフォルト）
ASCII 文字コードで表示します。
- ・『HEX』
16進正数に変換して表示します。16 進変換すると「5」が「35」に、「m」が「6D」のように、1文字を 16 進正数 2 文字で表示します。

[F1]キーを押すたびに表示が切り替わります。
なお、バーコードに TAB や改行コード等の制御コードが含まれている場合、「ASCII」では期待した表示内容にならない場合があります。その場合は「HEX」で表示してください。

■バーコードオプション

< バ ー コ ー ド オ プ シ ョ ン >

1:チェックデジット
2:JAN/EAN/UPC
3:Composite

[F2]キーを押すと各種バーコードオプションを設定できます。

なお、この設定はバーコードテストの間のみ有効になります。

●チェックデジット

チェックデジットをチェックするかどうかを設定します。

- ・ [チェックをします] を OFF にする (デフォルト)
チェックデジットのチェックを行ないません。
- ・ [チェックをします] を ON にする
チェックデジットのチェックを行います。

●JAN/EAN/UPC

JAN/EAN/UPC のアドオンコードの読取り条件を設定します。

- ・ 禁止 (デフォルト)
アドオンコードを読取りできません。
- ・ 許可
アドオンコードの有無を問わず、どちらも読取り可能です。
- ・ アドオンのみ許可
アドオンコードのある JAN/EAN/UPC のみ読取り可能です。

●Composite

EAN/UCC Composite の読取り条件を設定します。

- ・ 禁止 (デフォルト)
Composite コードの読取りを禁止します。
- ・ 許可
Composite コードの読取りを許可します。

注意

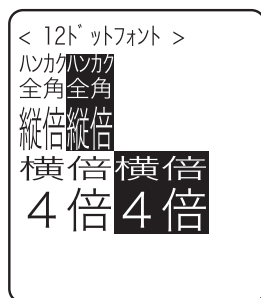
Composite コードの読取りを許可しますと、1 次元コードか Composite コードかを判別する為に JAN13/8、UPC-A/E の読取りに 3 秒程時間がかかります。

3-14-3 画面

画面に関するテストをします。

操作手順

- ①テストカテゴリから「3:画面」を選択します。



液晶の表示状態をテストします。

テストを開始すると自動的にバックライトが点灯します。なお、電池残量が少ない場合は点灯しません。

ⓐキー以外のキーを押すたびに、4種類の表示内容がスライドのように切り替わります。

- ①12ドットフォントの各種倍角文字



- ②16ドットフォントの各種倍角文字



- ③画面4隅から中心への反転表示(画面全体が反転表示になるまでキーは効きません)



- ④ウェルキャットロゴ

全ての表示を終えると、バックライトを消灯し、1つ前の操作に戻ります。

3-14-5 キー

キー入力と同時に、インジケータ(ブザー/バイブレータ/LED/音声再生)のテストも行ないます。

操作手順



キーを押すと、画面中央の区切り線の上に表示されているアイコンが反転表示(ENTキーのみ逆)するほか、区切り線の下にはキーに対応したアイコンが表示(ローカルエコー)されます。

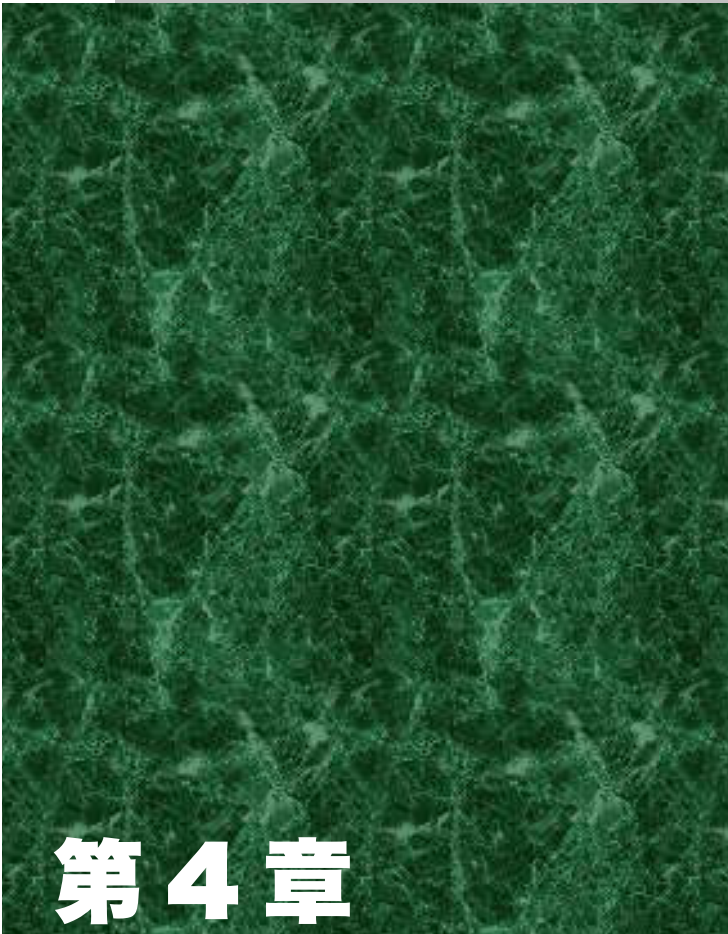
また、各キーに連動して、それぞれのキーに対応したインジケータが作動します。

各キーに割当てられているインジケータは次の通りです。

キー	ブザー	バイブ レータ	LED	音声再生
①～⑩、○	○	×	緑 (SCAN)	×
ENT、C、BS、SF、PW	○	×	赤 (ALRAM)	×
読取りキー (T、F9、F10)	×	○	橙 (SCAN)	×
F1	×	×	赤 (SCAN)	起動音
F2	×	×	赤 (SCAN)	会話 (バーコードを読んでもください)
F3	×	×	赤 (SCAN)	会話 (バッテリーを充電してください)
F4	×	×	赤 (SCAN)	会話 (エラーです)
F5	×	×	赤 (SCAN)	会話 (ゴ)
F6	×	×	赤 (SCAN)	会話 (ロク)
F7	×	×	赤 (SCAN)	会話 (ナナ)
F8	×	×	赤 (SCAN)	会話 (ハチ)

○キーが2回押されるか、全てのキーが押されるとテストが終了します。

全てのキーテストが終了するまでは、PWキーによる電源オフや、F4キーによるバックライトの操作はできません。

A large rectangular area with a green, marbled or textured background, resembling stone or paper. It is positioned in the upper right quadrant of the page.

第4章

FAQ（よくある質問と回答）

A horizontal bar with a green, marbled or textured background, matching the one above. It is positioned below the FAQ title.

4-1 FAQ

ここでは、よくある質問やトラブル、それらを解決するために確認する必要がある項目、および本マニュアルの参照ページを記載します。

Q：電源が入らない

- バッテリーカートリッジは正しく装着されていますか？---- (P.1-4)
- バッテリーカートリッジは充電されていますか？---- (P.1-18)
- バッテリーカートリッジの電極は汚れていませんか？---- (P.1-19)

Q：画面に何も表示されない

- バッテリーカートリッジは正しく装着されていますか？---- (P.1-4)
- バッテリーカートリッジは充電されていますか？---- (P.1-18)
- バッテリーカートリッジの電極は汚れていませんか？---- (P.1-19)

＜上記の項目を確認しても解決できない場合＞
次の方法で、システムメニューを起動してください。

1. バッテリーカートリッジを取外します。
2. 10 秒待ち、バッテリーカートリッジを装着します。
3. 読取りキーを押しながら PW キーを押します。

Q：しばらく操作を中断したら、電源が OFF になってしまった

- バッテリーカートリッジは充電されていますか？---- (P.1-18)
- オートパワーオフ機能が起動していませんか？---- (P.3-19)

Q：充電できない

- 端末は充電器に正しくセットされていますか？
- バッテリーカートリッジは充電器に正しくセットされていますか？
「1-6 充電仕様」(P.1-15)をご覧ください。

Q：システムメニューが起動しない

- 自動実行に"アプリケーション"が設定されていませんか？---- (P.3-13)

システムメニューの「1:システム設定」→「1:自動実行」で設定してください。

- 強制的にシステムメニューを起動する場合は、読取りキーを押しながら端末を起動してください。---- (P.3-9)

Q：電源を ON にしたときに起動するアプリケーションを変更したい

システムメニューの「1:システム」→「1:自動実行」で設定してください。---- (P.3-13)

Q：別のアプリケーションを起動するには

「システムメニューの「3:ファイル」から「1:アプリケーション」を選択し、サブメニューから実行を選択してください。---- (P.3-24)

Q：バーコードが上手く読取れない

- アプリケーションの設定に沿ったバーコードを読取っていますか？

アプリケーションの設定によっては、特定の種類のバーコードが読取り禁止になっている場合があります。

- 読取り角度は正しいですか？---- (P.1-13)

スキュー角が大きくなるとバーコードを読取らない場合があります。バーコードに対してエイミングパターンがなるべく垂直に照射されるように読取りを行ってください。ただし、スキュー角 15°以内はデッドゾーンになるため、ご注意ください。

- 読取り距離は正しいですか？---- (P.1-11)

- フォーカスの設定は正しいですか？---- (P.3-34)

フォーカスの設定によって読取り可能な分解能、読取り幅が異なります。

- 読取り口のフィルタは汚れていませんか？

読取り口のフィルタが汚れていると正しくバーコードを読取らないことがあります。乾いた柔らかい布でフィルタを拭いてください。

- ラベルの品質は良いですか？

ラベルの品質が悪い場合、正しく読取れない場合があります。その場合、エイミングパターンの中心の十字をコードの中心からずらした方が読取りが良くなる場合があります。

Q：太陽光の下での読取りは可能か？

太陽光の下では読取りは可能ですが、エイミングパターンが視認できないことがあります。その場合は日陰にて読取りを行ってください。

Q：暗闇での読取りは可能か？

読取りは可能です。ただし、事前に現場での読取り試験を必ず行ってください。

Q：ドライブの空き容量を確認するには

システムメニューの「6:メンテナンス」→「5:ドライブ」で確認します。---- (P.3-53)

Q：Bluetooth 通信ができない

- 接続先リモートデバイスがデフォルトデバイスに設定されていますか？ ---- (P.3-38)
- 接続先リモートデバイスとセキュリティ設定は同一ですか？ ---- (P.3-36)
- 接続先リモートデバイスは正しく設定されていますか？
 - ・電源は ON になっていますか？
 - ・接続は可能になっていますか？
- 接続手順は正しいですか？
 - ・PC と XIT-120-M を接続 (P.1-7)
 - ・XIT-120-M 端末間通信 (P.3-20～45)
 - ・Bluetooth クローン (P.3-51)
 - ・Bluetooth のテスト (P.3-58)

Q：WLAN と Bluetooth の同一環境での同時使用は可能か？

同時使用は可能ですが、無線の相互干渉により通信の遅れが生じる場合があります。

Q：ファイルの送受信中に「書き込みに失敗しました」と表示された

- F ドライブの空き領域が少ない場合などに表示されます。
F ドライブ、および S ドライブのファイルを削除して空き容量を増やしてからやり直してください。

Q：ファイルの送受信中に「タイムアウトです」と表示された

- 送信または受信待ち状態のままで一定時間が経過すると表示されます。
- ホストコンピュータの通信ソフトは起動していますか？ ---- (P.1-4)
 - 通信設定は正しく設定されていますか？ ---- (P.1-4)
 - XIT-120-M とホストコンピュータは正しく接続されていますか？ ---- (P.1-7)
 - ホストコンピュータのリソースが不足していませんか？
通信ソフト以外のアプリケーションなどが起動している場合、コンピュータのリソースが不足することで、ファイルの送受信が上手く行なわれないことがあります。通信に必要なアプリケーションは、できるだけ終了してから再度通信を行なってください。

Q：ファイルの送受信中に「接続に失敗しました」と表示された

- コンピュータ上で BluePorter や、「B-Spider (WLF-002) を使用したアプリケーション」は起動していますか？
- 目的のリモートデバイスとは別のリモートデバイスに接続していませんか？
- リモートデバイスとセキュリティは設定は同一ですか？
- 端末 ID、リモートデバイスの設定は正しく行われていますか？

Q：アプリケーションの起動やファイルの送受信ができない

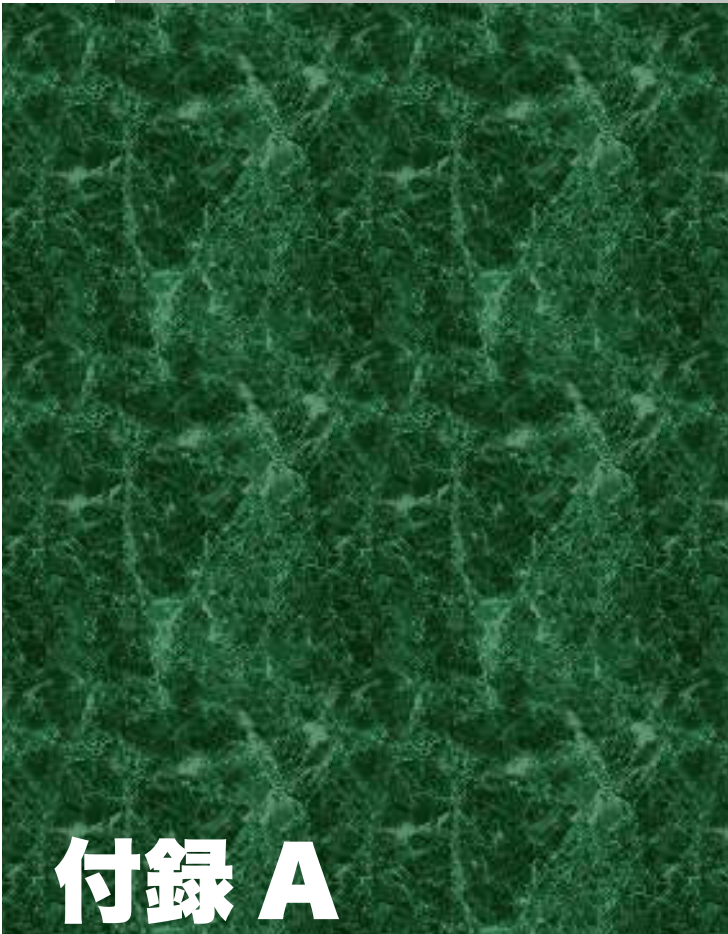
バッテリーカートリッジの電圧が弱いときは、一部の機能が操作できなくなります。バッテリーカートリッジは充電されていますか？---(P.3-48)

Q：ファイルが壊れているようなのですが

ファイルを削除するか、ホストコンピュータ等に転送してデータを復旧するなどの対応をしてください。---(P.3-25～3-28)

Q：「システムエラー」と表示され、キーを押したら電源が OFF になった

システムプログラムがエラーの原因を特定できなかった場合に表示します。ハードウェア、システムプログラム、アプリケーション等の障害、強度の静電気のような外部要因、ユーザの操作ミスなどの原因が考えられます。システムエラーメッセージが表示された場合、**Ⓟ**キーを押すと電源が切れます。次回の起動時に可能な限り自己復旧します。再度電源を ON してください。



付録 A

システムメニュー出荷時設定一覧



付録 A-1 システムメニュー出荷時設定一覧

設定項目	設定可能範囲	出荷時設定値
自動実行プログラム	システムメニュー任意のアプリケーション	1:システムメニュー
レジューム	有効にする、有効にしない	有効にしない
パスワード	4～30 文字の英数記号で大文字/小文字を判別	
オートウェイクアップ	『毎月』『毎週』『毎日』の何れかの指定時刻	
オートパワーオフ時間	0000、または 0060～3600 (秒)	0600 (秒)
端末 ID	000～999	000
バーコード読取りキー操作	ノーマル、ダブル、リリース、オート	ノーマル
バーコードパワーセーブ	フルセーブ、クイックセーブ、ノーセーブ	フルセーブ
バーコードレーザ照射時間	00～60	20 (秒)
バーコードフォーカス	近距離、遠距離、自動	近距離
キーリポート開始時間	0000 または 0100～1000	0500 (ミリ秒)
キーリポート間隔	0000 または 0100～1000	0100 (ミリ秒)
Bluetooth ローカルデバイスデバイス名	30 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別	XIT-120
Bluetooth ローカルデバイス認証	有効にする、有効にしない	有効にしない
Bluetooth ローカルデバイス PIN コード	16 文字までの 16 進文字 (0～9、A～F)	
Bluetooth リモートデバイス 1～7 デバイス名	30 文字までの英数記号で大文字/小文字を判別	未登録
Bluetooth リモートデバイス 1～7BD アドレス	12 文字固定の 16 進文字 (0～9、A～F)	00:00:00:00:00:00
Bluetooth リモートデバイス 1～7 認証	有効にする、有効にしない	有効にしない
Bluetooth リモートデバイス 1～7PIN コード	16 文字までの 16 進文字 (0～9、A～F)	
Bluetooth リモートデバイス検索オプション	1～9	9
画面コントラスト	レベル 1～8	レベル 4
バックライト輝度	高輝度にする、高輝度にしない	高輝度にする
ボリューム	レベル 1～8	レベル 8
キークリック音	なし、クリック音、クリック音+音声、音声	なし

付録 B

サンプルバーコード

付録 B-1 サンプルバーコード

■JAN13



■JAN8



■UPC-E



■CODE39 (C/D あり)



(注) 印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■CODE39 (C/D なし)



■NW-7 (C/D あり)



■NW-7 (C/D なし)



■NW-7 (HEX)



(注) 印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■ITF (C/D あり)



■ITF (C/D なし)



■ITF (標準バージョン ITF-14)



■ITF (拡張バージョン ITF-16)



(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■ITF（アドオンバージョン ITF-6）



■CODE128（コードセット A）



■CODE128（コードセット B）



■CODE128（コードセット C）



(注) 印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■EAN128 (コードセット A)



■EAN128 (コードセット B)



■EAN128 (コードセット C)



(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■RSS-14

●Standard



●Stacked



■RSS Limited



■RSS Expanded

●Standard



●Stacked



(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■EAN/UCC Composite

●RSS-14 Stacked CC-A



●RSS-14 Stacked CC-B



■PDF417



PDF417 は数字のみで最大 2725 桁、英字・記号のみで 1850 桁、バイナリのみで 1108 桁まで可能



英数記号、バイナリを扱う事が出来る

■Data Matrix



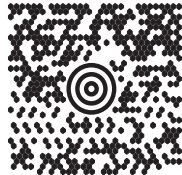
DataMatrix は桁数は数字のみで最大 3116 桁、
英字のみで最大 2335 桁、
バイナリのみで 1556 桁まで可能



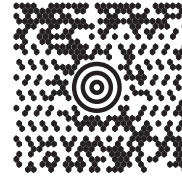
英数字、バイナリを扱う事が出来る、
マトリックス型シンボル体系の 2 次元シンボル

(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。

■Maxi Code



同一エリア内に
複数台運用できます



株式会社 ウェルキヤット

■QR コード

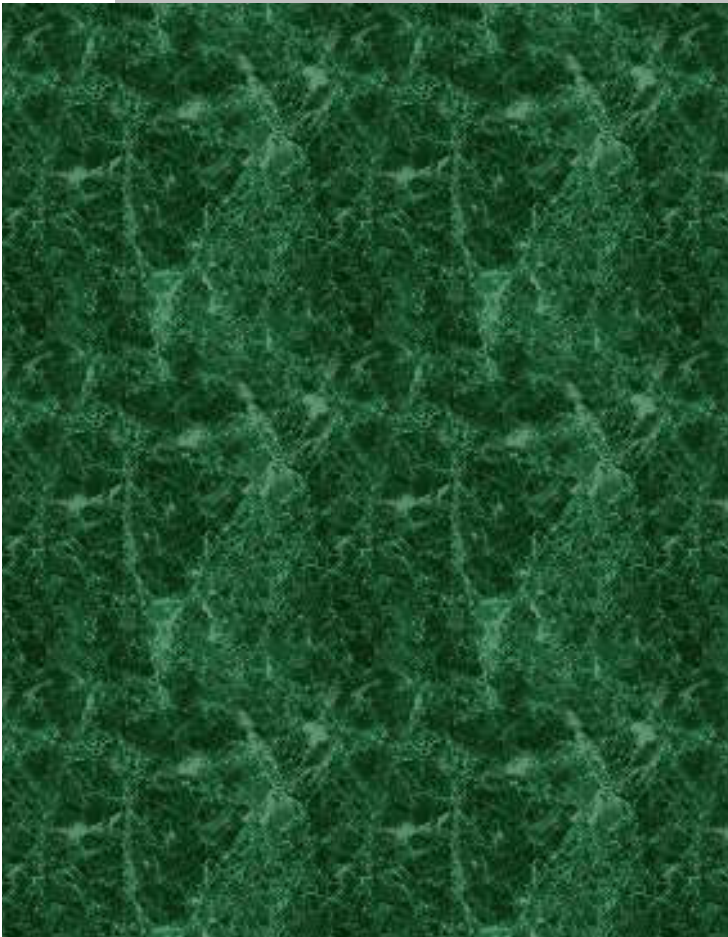


QR コードは数字のみで最大 7089 桁、
英字・記号のみで最大 4296 桁、
バイナリのみで最大 2953 桁、漢字のみで
最大 1817 桁まで可能



英数記号、バイナリ、漢字を扱う事が出来る

(注)印刷の際の拡大、縮小、汚れ等の印刷品質が著しい場合は、読取れなくなることがあります。



索引



索引

A

ALARM LED..... 1-2

B

BHCP..... 3-11, 3-56
 BluePorter..... xv, 1-5
 Bluetooth 通信ユニット..... xv, 1-5
 Bluetooth リモートデバイス 1~7BD アドレス(出荷時
 設定一覧)..... A-2
 Bluetooth リモートデバイス 1~7PIN コード(出荷時
 設定一覧)..... A-2
 Bluetooth リモートデバイス 1~7 デバイス名(出荷
 時設定一覧)..... A-2
 Bluetooth リモートデバイス 1~7 認証(出荷時設定
 一覧)..... A-2
 Bluetooth リモートデバイス検索オプション(出荷時
 設定一覧)..... A-2
 Bluetooth ローカルデバイス PIN コード(出荷時設定
 一覧)..... A-2
 Bluetooth ローカルデバイス認証(出荷時設定一
 覧)..... A-2
 Bluetooth ローカルデバイスデバイス名(出荷時設定
 一覧)..... A-2
 B-Spider..... xvi, 1-5

C

CODE128(コードセット A) (サンプルバーコード)
B-5
 CODE128(コードセット B) (サンプルバーコード)
B-5
 CODE128(コードセット C) (サンプルバーコード)
B-5
 CODE39(C/D あり) (サンプルバーコード)B-2
 CODE39(C/D なし) (サンプルバーコード)B-3

D

Data Matrix(サンプルバーコード).....B-8

E

EAN/UCC Composite(サンプルバーコード)B-8
 EAN128(コードセット A) (サンプルバーコード)B-6
 EAN128(コードセット B) (サンプルバーコード)B-6
 EAN128(コードセット C) (サンプルバーコード)B-6

F

F10 キー..... 1-2
 F9 キー..... 1-2
 Fドライブ..... xv, 1-20, 2-2

H

HBC-51..... xv, 1-18

I

ITF(C/D あり) (サンプルバーコード).....B-4
 ITF(C/D なし) (サンプルバーコード).....B-4
 ITF(アドオンバージョン ITF-6) (サンプルバーコー
 ド).....B-5
 ITF(拡張バージョン ITF-16) (サンプルバーコード)
B-4
 ITF(標準バージョン ITF-14) (サンプルバーコード)
B-4

J

JAN13(サンプルバーコード)B-2
 JAN8(サンプルバーコード).....B-2

L

LCD.....viii, 1-2

M

Maxi Code(サンプルバーコード).....B-9

N

NW-7(C/D あり) (サンプルバーコード)B-3
 NW-7(C/D なし) (サンプルバーコード)B-3
 NW-7(HEX) (サンプルバーコード)B-3

O

OS のバージョン..... 3-49

P

PDF417(サンプルバーコード)B-8

Q

QC-001.....	1-15
QC-002.....	1-15, 1-16
QRコード(サンプルバーコード).....	B-9

R

RSS Expanded(サンプルバーコード).....	B-7
RSS Limited(サンプルバーコード).....	B-7
RSS-14(サンプルバーコード).....	B-7

S

SCAN LED.....	1-2, 1-15
SCAN LED の表示(端末充電中).....	1-9
Sドライブ.....	xv, 1-20, 2-2

U

UPC-E(サンプルバーコード).....	B-2
-----------------------	-----

W

WebGlider-X Lite.....	xv, 1-5, 2-2
WebGlider-X Lite ブラウザ.....	xv

X

XIT-120-Mのソフトウェア.....	2-2
-----------------------	-----

あ

アプリケーションプログラム.....	2-2
--------------------	-----

い

イルミネーションLED.....	xv, 1-10
インジケータ.....	3-43

う

ウィザード.....	3-9, 3-55
------------	-----------

え

エイミング.....	1-10
エイミングパターン.....	xv
エンターキー.....	1-2

お

オートウェイクアップ.....	3-18
スケジュールの解除.....	3-19

スケジュールの確認.....	3-18
スケジュールの設定.....	3-18
オートウェイクアップ(出荷時設定一覧).....	A-2
オートパワーオフ.....	3-19, 4-2
オートパワーオフ時間(出荷時設定一覧).....	A-2
音.....	3-31, 3-43
音量.....	3-43

か

拡張子.....	2-3, 3-22
画面.....	3-41, 4-2
画面コントラスト(出荷時設定一覧).....	A-2
画面出力キャラクタ	
全角文字.....	1-24
半角文字.....	1-25

き

キー.....	3-3
キークリック音.....	3-47
キークリック音(出荷時設定一覧).....	A-2
キーの文字割当て.....	3-4
キーリピート開始時間(出荷時設定一覧).....	A-2
キーリピート間隔(出荷時設定一覧).....	A-2
輝度.....	3-42
キャンセルキー.....	1-2

く

クローン.....	3-51
-----------	------

け

現在の時刻.....	3-14
------------	------

こ

コントラスト.....	3-42
-------------	------

さ

サーバ設定(時計).....	3-14
サポートする音声ファイル.....	3-22
サポートするビットマップファイル.....	3-22

し

システムバージョン.....	3-49
システムプログラム.....	xv, 2-2
システムメニュー.....	xv, 2-2, 2-4, 3-2, 4-3
起動.....	3-9
基本操作.....	3-5
システムメニュー一覧.....	3-12

システムメニュー出荷時設定	A-2
システムレジストリ	3-2
自動実行	3-13
自動実行プログラム(出荷時設定一覧)	A-2
シフトキー	1-3
充電	1-15, 4-2
充電エラー	1-17
充電器	1-15
充電仕様	1-15
充電端子	1-3
受信	3-20
受信方法	3-20
初期化	3-49
シリアル番号シール	1-3
シングルチャージャ	1-15

す

スキュー	1-13
スピーカ放音孔	1-3

せ

正反射	1-13
製品仕様	1-8
製品銘板	1-3
セキュリティレジストリ	3-2
設定ウィザード	3-9, 3-55

そ

ソフトウェア	2-2
--------------	-----

た

端末	xv
端末 ID	3-30
端末 ID(出荷時設定一覧)	A-2

ち

長期保管	3-55
端末	1-22
バッテリーカートリッジ	1-22
チルト	1-13

て

データ通信の準備	
Bluetooth 通信	1-6
データ通信の方法	
Bluetooth 通信の場合	1-7
データの格納場所	1-20, 2-2
テスト(Bluetooth)	3-58

テスト(インジケータ)	3-62
テスト(画面)	3-61
テスト(キー)	3-62
テスト(バーコード)	3-59
デッドゾーン	1-13
デバイスレジストリ	3-2
デフォルトデバイス	xv
テンキー	1-2
電極の清掃	1-19
電池切れアラーム	3-8
電池残量	3-8, 3-48
テンポラリファイル	2-3

と

時計	3-14
現在の時刻	3-14
サーバ設定	3-14
マニユアル設定	3-14
ドライブ	3-54
トリガモード	3-32

は

バーコード	3-31
バーコードパワーセーブ(出荷時設定一覧)	A-2
バーコードフォーカス(出荷時設定一覧)	A-2
バーコード読み取りキー操作(出荷時設定一覧)	A-2
バーコードレーザ照射時間(出荷時設定一覧)	A-2
ハードウェアデバイス	3-31
ハードウェアデバイスのテスト	3-58
バイプ	3-43
パスワード	3-16
解除	3-17
設定	3-17
パスワード(出荷時設定一覧)	A-2
破損ファイル	3-28
バックアップ電池	xv, 1-19
バックアップ用電池	1-21
バックスペースキー	1-3
バックライト輝度	3-42
バックライト輝度(出荷時設定一覧)	A-2
バッテリーカートリッジ	vii, xv, 1-3, 1-4, 1-15, 1-18, 1-20, 4-2
交換	1-19
充電	1-16
消耗	1-19
取付け	1-19
取外し	1-18
バッテリーカバー	1-3
バッテリーカバーロックレバー	1-3

パワーキー	1-2
ハンドストラップ	1-3

ひ

ピッチ	1-13
-----------	------

ふ

ファイルの受信	3-20
ファイル名	2-3
ファンクションキー	1-2
フォーカス	xv

ほ

方向キー	3-35
ボリューム	3-43
ボリューム(出荷時設定一覧)	A-2

ま

マニュアル設定(時計)	3-14
マルチチャージャ	1-16

む

無線機能	1-6
------------	-----

め

メモリバックアップ	
バックアップ用電池	1-21
バッテリーカートリッジ	1-20

ゆ

ユーザレジストリ	3-2
ユニークレジストリ	3-2

よ

読取り角度	1-10
読取り可能角度	1-12
読取りキー	xv, 1-2
読取り口	1-2
読取り仕様	1-10
読取り深度	1-11
読取り範囲	1-14
読取り優先順位	1-14

り

リモートデバイス	xv, 3-38
----------------	----------

れ

レジストリ	3-2
レジューム	3-15
失敗	3-15
無効	3-16
有効	3-15
レジューム(出荷時設定一覧)	A-2
レジューム機能	1-23

ろ

ローカルデバイス	xv, 3-36
----------------	----------

FAX 用ユーザ登録フォーム

この度は弊社製品をご購入頂き、ありがとうございます。
お買上頂きました製品をご利用するにあたり、ユーザ登録をお願い致します。
ユーザ登録は弊社が製品の保証をするために必要なものですので、ぜひ登録をお願い致します。
またご登録いただく事で、商品・サービスに関連した情報等をご提供させていただきます。

下記フォームに必要事項をご記入の上、FAXにてお送りください。

FAX : 03-5463-8586

御社名			
部署		御担当者	
住所			
TEL		FAX	
Mail アドレス			
ご購入先			
ご購入区分	新規購入 ・ 追加購入		
ご利用用途	生産管理・在庫管理・出荷管理・トレーサビリティ・品質管理 その他（ ）		
シリアル番号	シリアル番号のアルファベットで製品名がわかりますので、シリアル番号のみをご記入ください。		

二次元ハンディターミナル
XIT-120-M
ユーザーズマニュアル

2007 年 5 月 第 6 版発行
Copyright©2005 Welcat Inc.

株式会社ウェルキャット

<http://www.welcat.co.jp/>
info@welcat.co.jp